

第 **1** 部

調 查 結 果

第1 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、平成18年3月に制定した「岐阜市子どもの権利に関する条例」が10年目の節目を迎えるにあたり、子どもの権利保障を一層充実させたり、条例の認知度を高めたりすることを目的として、市内の小中学校及び高校の児童生徒等（以下「子ども」といいます）ならびにその保護者の皆様を対象に実施しました。

2 調査方法等

区 分	小 学 校		中 学 校		高 校		特別支援学校	
	子ども	保護者	子ども	保護者	子ども	保護者	子ども	保護者
調査の実施者	岐 阜 市							
調査対象者と抽出方法	市内の5小学校の4～6年の子どもとその保護者		市内の5中学校の1～3年の子どもとその保護者		市内の高校生等とその保護者を無作為抽出		市内特別支援学校高等部の子どもとその保護者	
調査票の配布・回収	各学校において配布・回収				郵送配布・郵送回収		学校において配布・回収	
調 査 期 間	平成27年6月～7月				平成27年8月		平成27年6月～7月	

3 回収結果

単位：有効回答率は%、他は人

区 分	小 学 校		中 学 校		高 校		特別支援学校		合 計	
	子ども	保護者	子ども	保護者	子ども	保護者	子ども	保護者	子ども	保護者
配 布 数	533	533	513	513	500	500	30	30	1,576	1,576
回 収 数	521	443	499	423	114	129	28	22	1,162	1,017
有効回答数	515	441	497	422	114	129	28	22	1,154	1,014
有効回答率	96.6	82.7	96.9	82.3	22.8	25.8	93.3	73.3	73.2	64.3

4 調査・分析にあたって

- (1) 回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問については、すべての比率を合計すると100%を超えます。
- (2) 回答率(%)は、小数点第2位以下を四捨五入しました。
- (3) 図表中の選択肢等は、簡略したものもあります。
- (4) 図表中、「-」は選択肢がないもの、「0.0」あるいは「0」は当該選択肢に○をつけた人がいなかったものです。
- (5) 属性不詳が次表のとおりあります。

区 分	小 学 校		中 学 校		高 校		特別支援学校	
	子ども	保護者	子ども	保護者	子ども	保護者	子ども	保護者
学 年	7	8	11	10	11	5	0	0
保護者の年齢	-	3	-	3	-	2	-	0
子どもの性別	6	-	14	-	3	-	0	-
保護者の性別	-	14	-	7	-	4	-	1

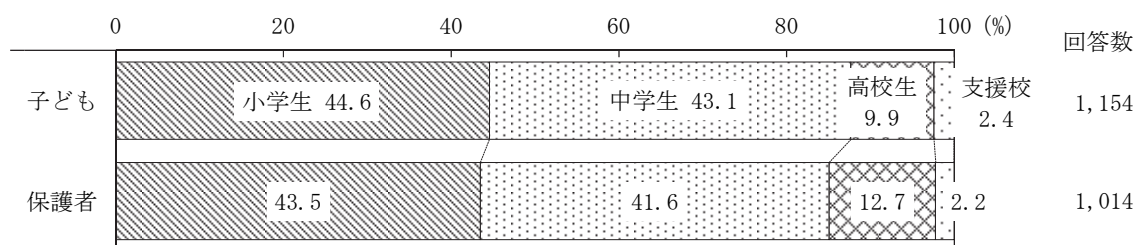
第2 回答者の属性

1 学年

図表1は、小学生、中学生、高校生等別に回答者数の比率をみたものです。小学生および中学生の比率は、子ども・保護者とも40%を超えているのに対し、高校生が10%前後となっています。これは、小学生および中学生は学校で配布・回収したため、回収率が高く、高校生は郵送配布・郵送回収したため、回収率が低くなったからです。

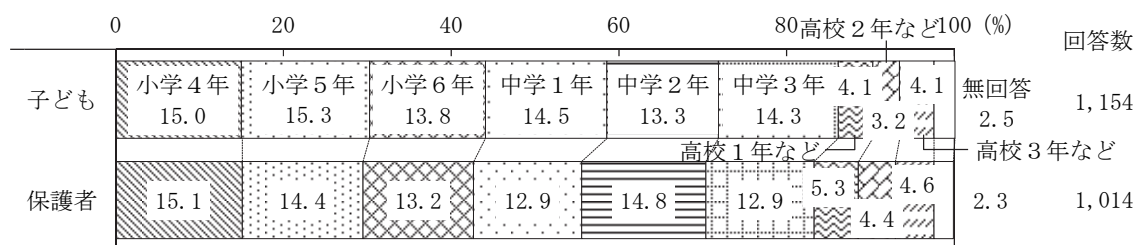
図表2は、調査対象者の学年別の比率、図表3は調査対象者の学校種別に学年別の比率をみたものです。

図表1 小・中・高校等別



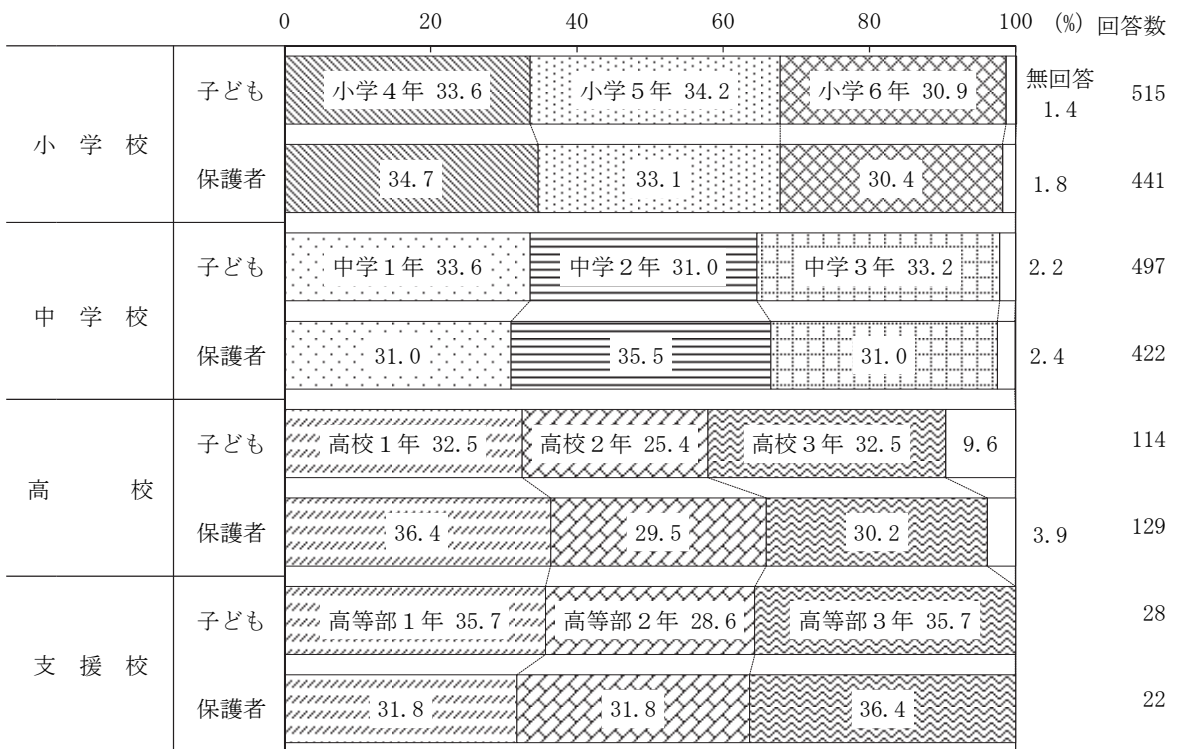
(注) 以下の図表において、「特別支援学校」は「支援校」と略します。

図表2 学年



(注) 「高校」には、特別支援学校高等部を含みます。

図表3 学校種別の学年別の比率

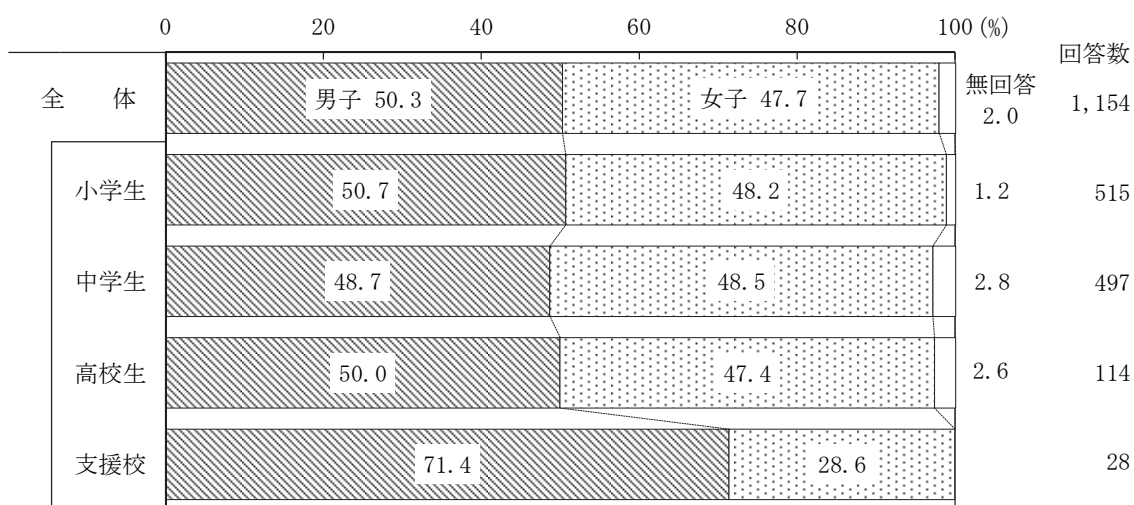


2 性別

子どもの性別

子どもの性別は、男子50.3%、女子47.7%、無回答2.0%ですが、無回答を除いて計算すると、男子51.3%、女子48.7%となります。平成27年版子供・若者白書をみると、平成26年10月1日現在の10～19歳の日本全体の男女比は、男子51.2%、女子48.8%となっており、ほぼ符合しています。

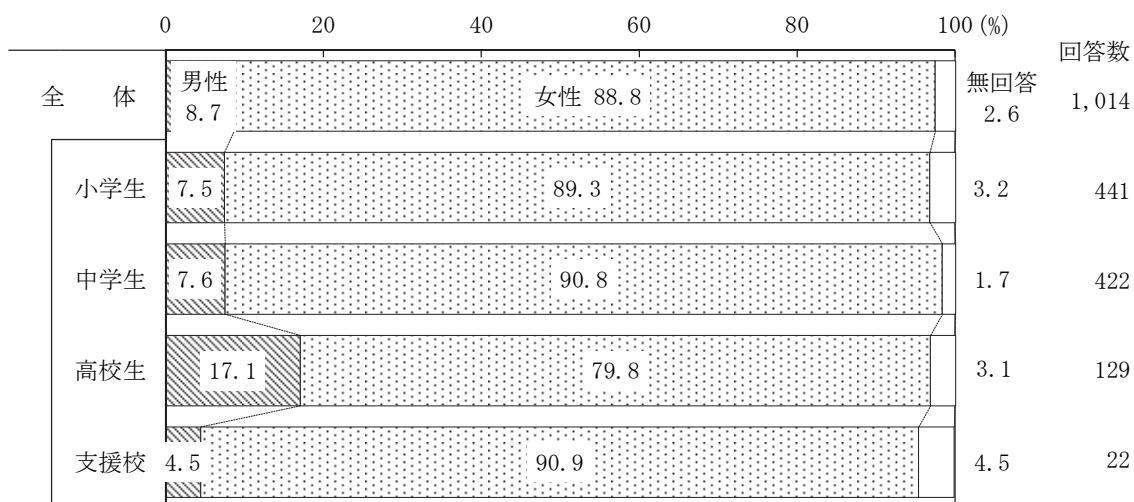
図表4 子どもの性別



保護者の性別

保護者の性別は、女性が88.8%を占めています。

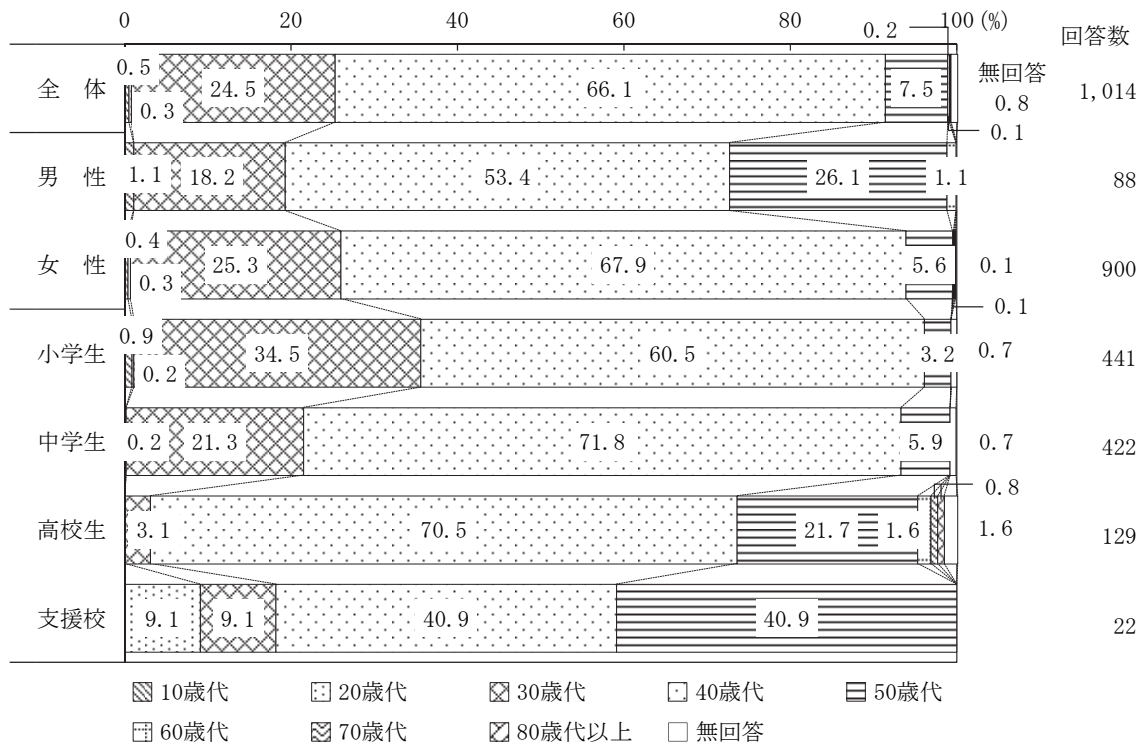
図表5 保護者の性別



3 保護者の年齢

調査票に回答した保護者の年齢は、40歳代が66.1%を占めています。20歳代以下と60歳代以上は、ごくわずかです。

図表6 保護者の年齢



第3 子どもの思いやふだんの生活

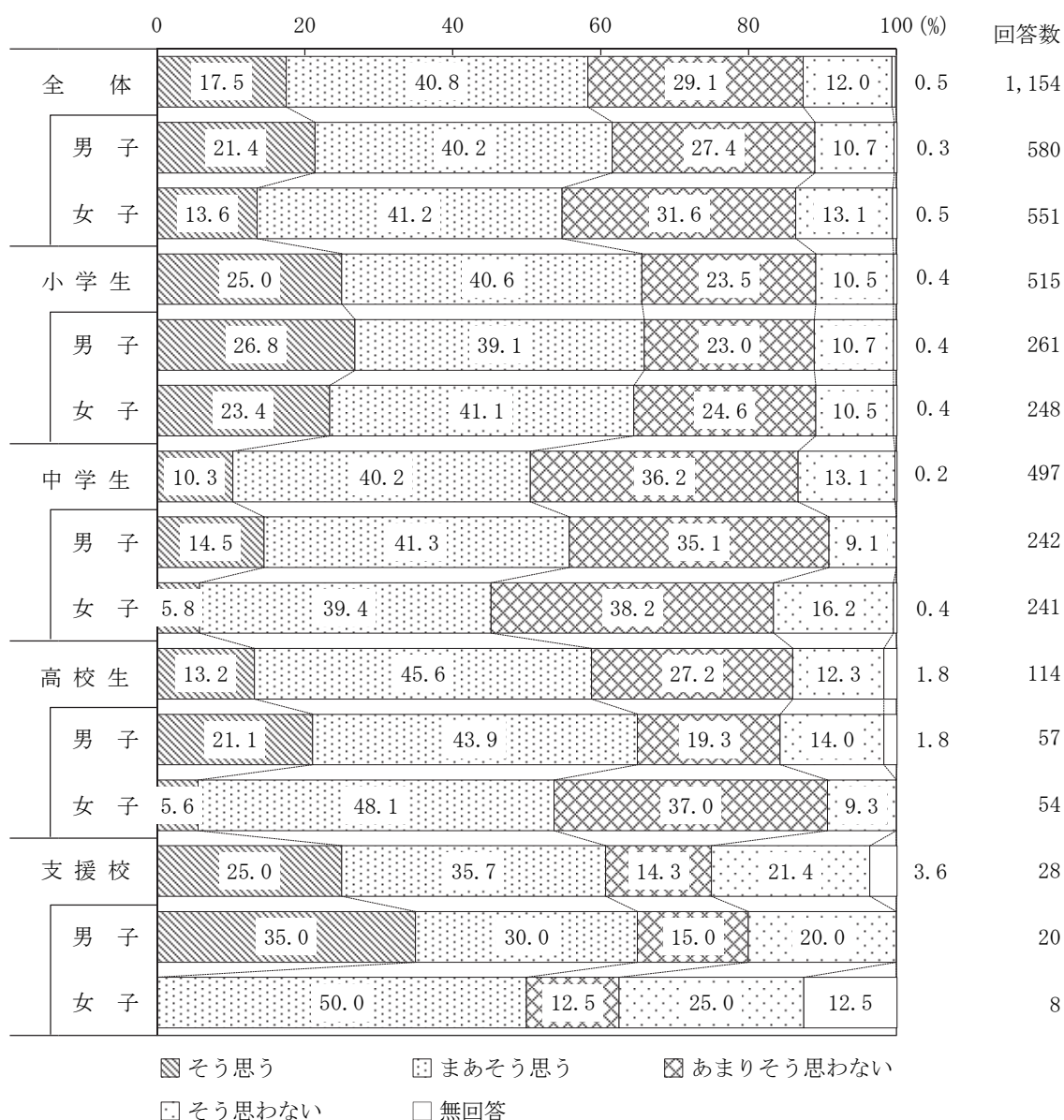
1 自分について、どのように感じているか (子ども：問3 保護者：問4)

(1) 自分のことが好きだ

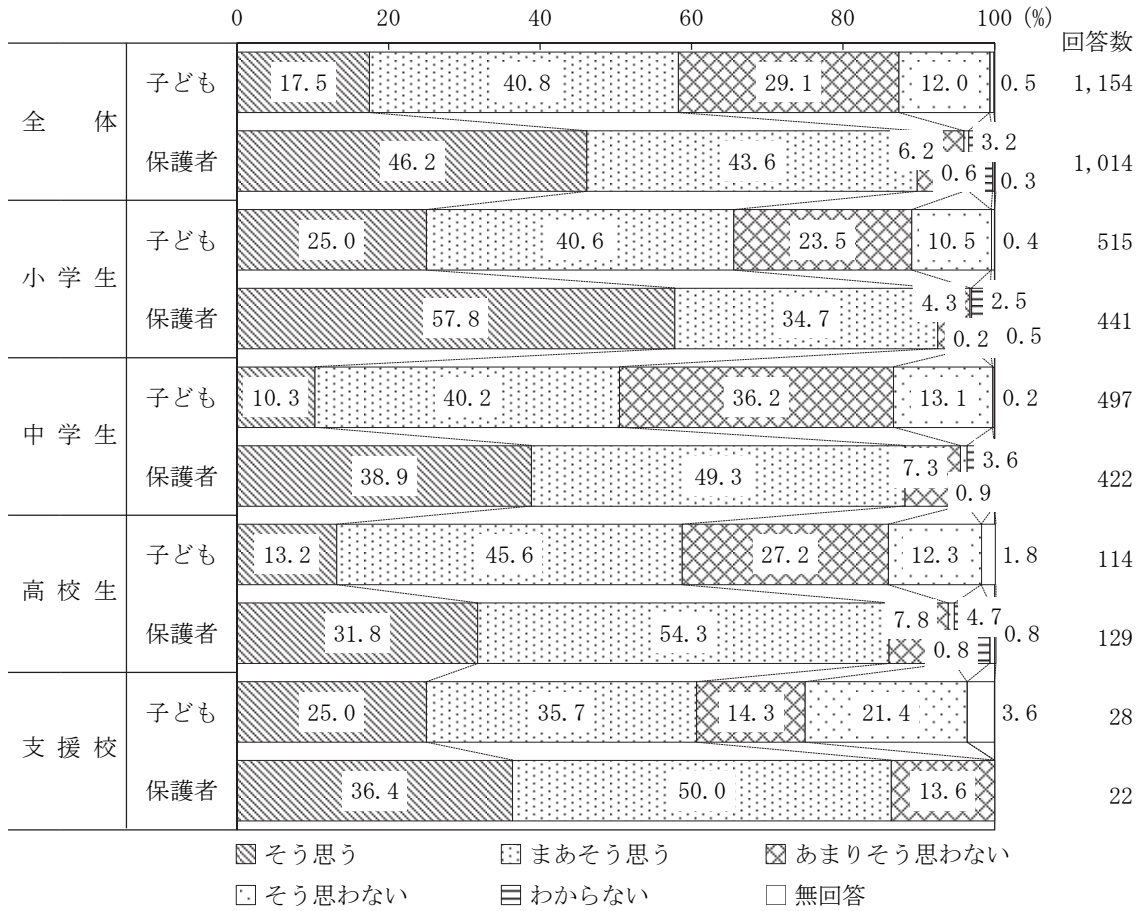
子どもの「自分のことが好きだ」と「思う」(「そう思う」+「まあそう思う」)率は、男子61.6%、女子54.8%と、男子のほうが高くなっています。又、この率は、小学生が最も高く、中学生が最も低くなっています(図表7)。

図表8は、保護者に「子どもは、自分のことを好きだと思っている」かを聞いた結果と子どもの「自分のことが好きだ」を比較したものです。保護者の「そう思う」(46.2%)と「まあそう思う」(43.6%)の合計は89.8%となっており、子ども全体の58.3%より30ポイント以上高くなっています。

図表7 自分のことが好きだ (子ども：問3-①)



図表8 自分のことが好きだ（子ども：問3-①）と子どもは自分のことが好きだと思っている（保護者：問4-①）の比較



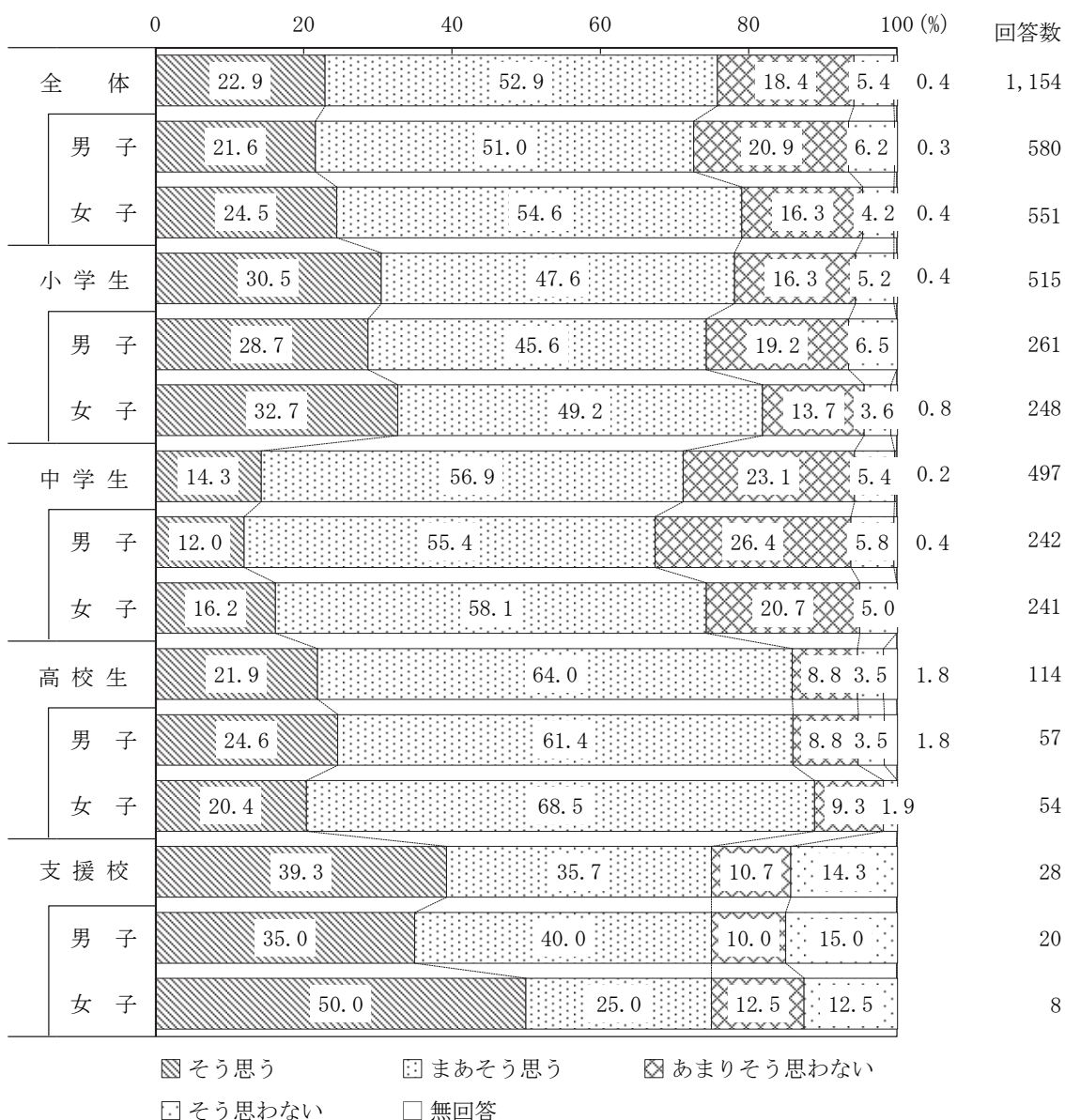
(注)「わからない」は子どもの選択肢にありません。

(2) 自分は周りの人から大切にされている

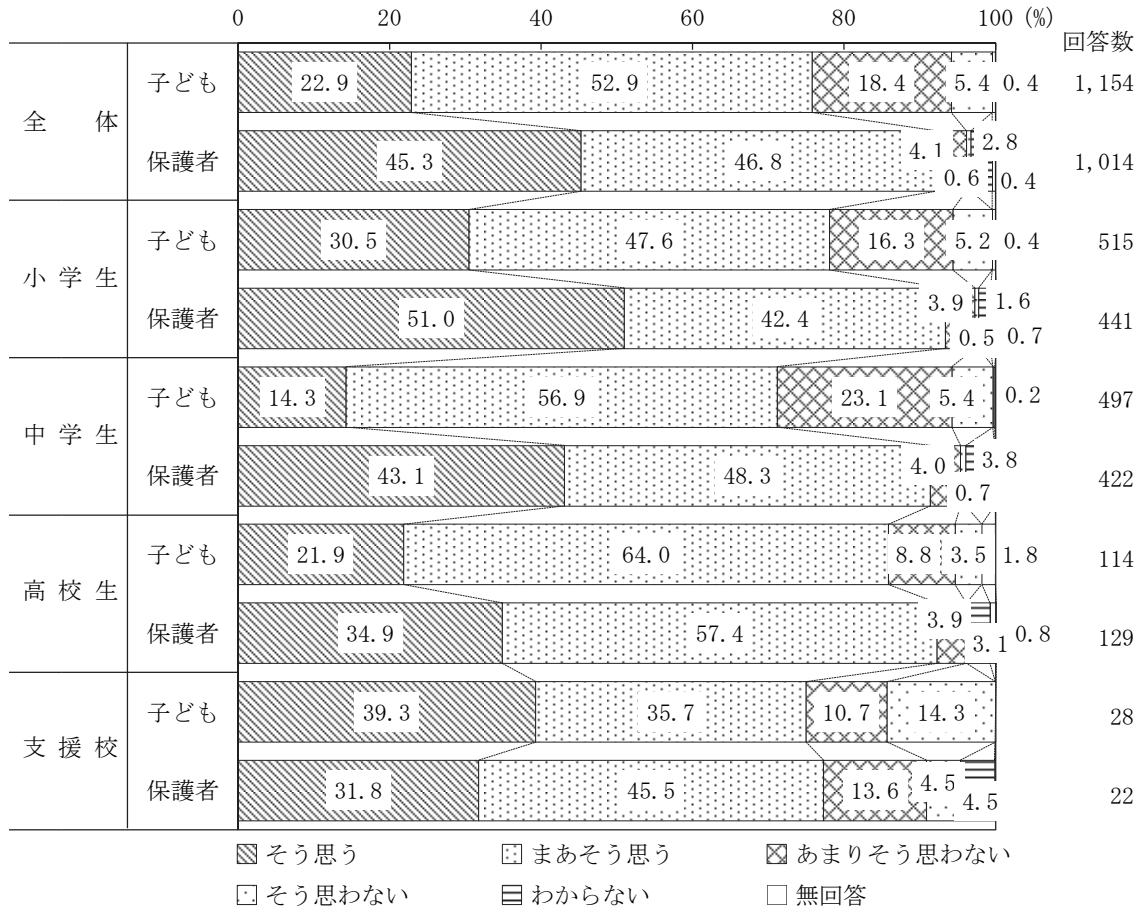
子どもの「自分は周りの人から大切にされている」と「思う」(「そう思う」+「まあそう思う」)率は、男子72.6%、女子79.1%と、女子のほうが高くなっています。この率は、高校生の85.9%が最も高く、中学生の71.2%が最も低くなっています(図表9)。

図表10は、保護者に「子どもは、自分は周囲の人から大切にされていると思っている」かを聞いた結果と子どもの「自分は周りの人から大切にされている」を比較したものです。保護者の「そう思う」(45.3%)と「まあそう思う」(46.8%)の合計は92.1%となっており、子ども全体の75.8%より16.3ポイント高くなっています。

図表9 自分は周りの人から大切にされている(子ども:問3-②)



図表10 自分は周りの人から大切にされている（子ども：問3-②）と子どもは自分が周囲の人たちから大切にされていると思っている（保護者：問4-②）の比較

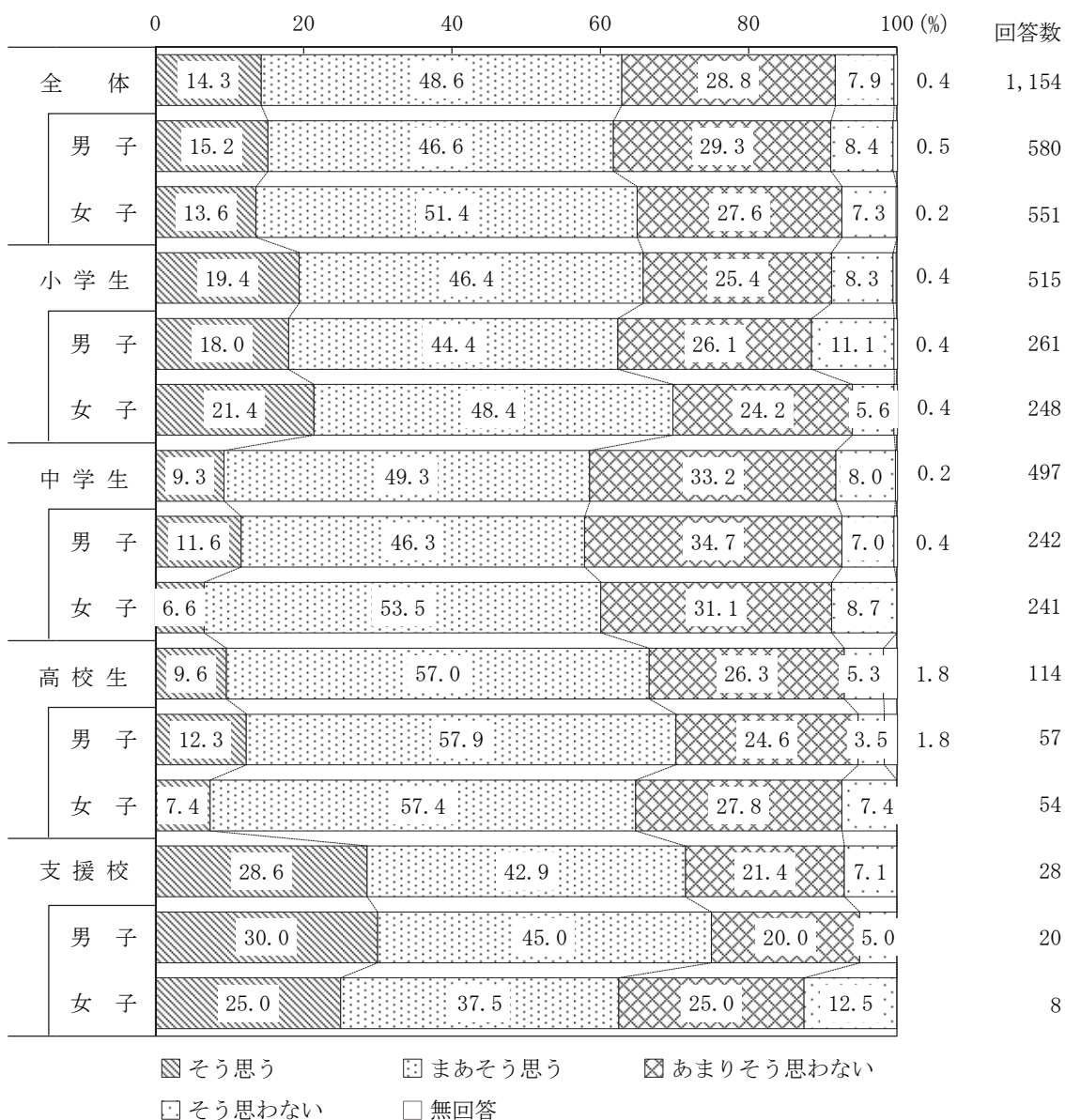


(注) 「わからない」は子どもの選択肢にありません。

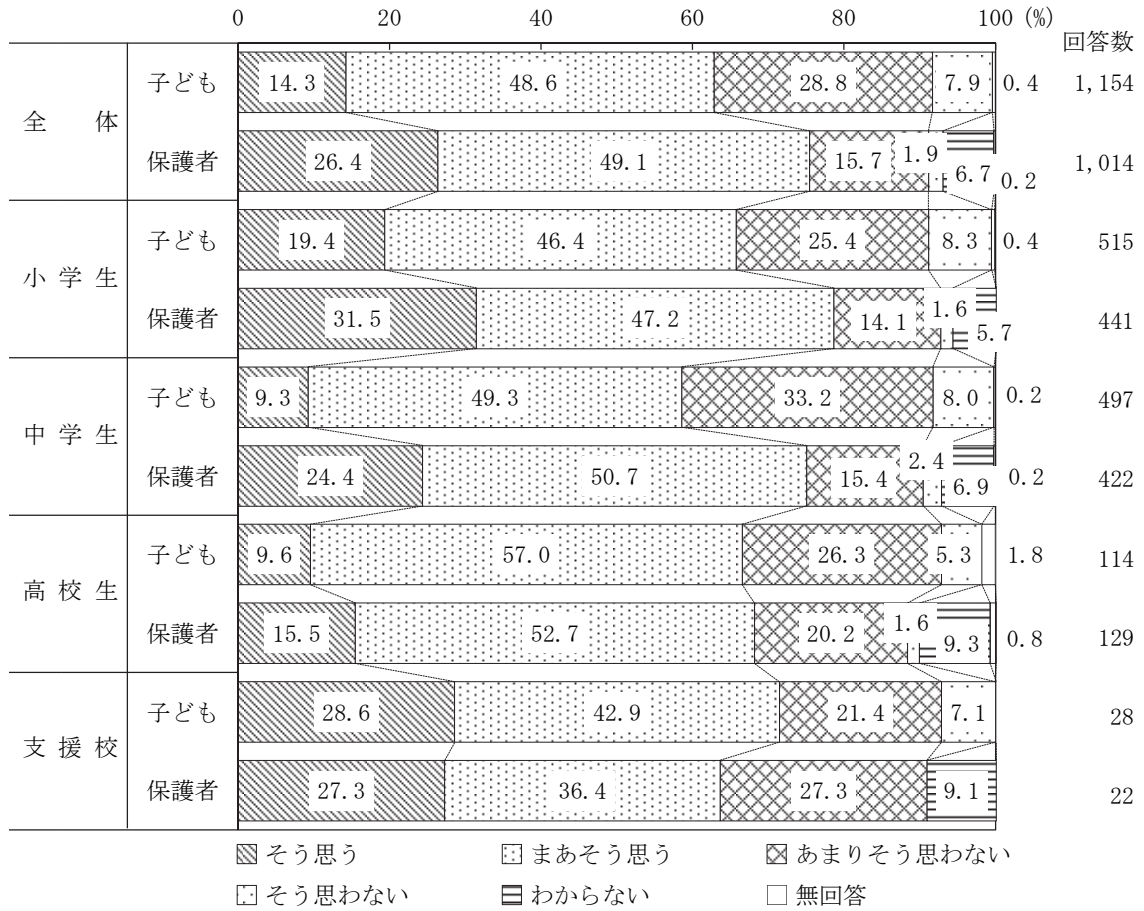
(3) 自分はだれかの役に立っている

子どもの「自分はだれかの役に立っている」かについては、「まあそう思う」(48.6%)、「あまりそう思わない」(28.8%)、「そう思う」(14.3%)の順になっています。「そう思う」と「まあそう思う」の合計は、子どもが62.9%であり、保護者の75.5%より、12.6ポイント低くなっています。

図表11 自分はだれかの役に立っている（子ども：問3-③）



図表12 自分はだれかの役に立っている（子ども：問3-③）と子どもは自分がだれかの役に立っていると
思っている（保護者：問4-③）の比較



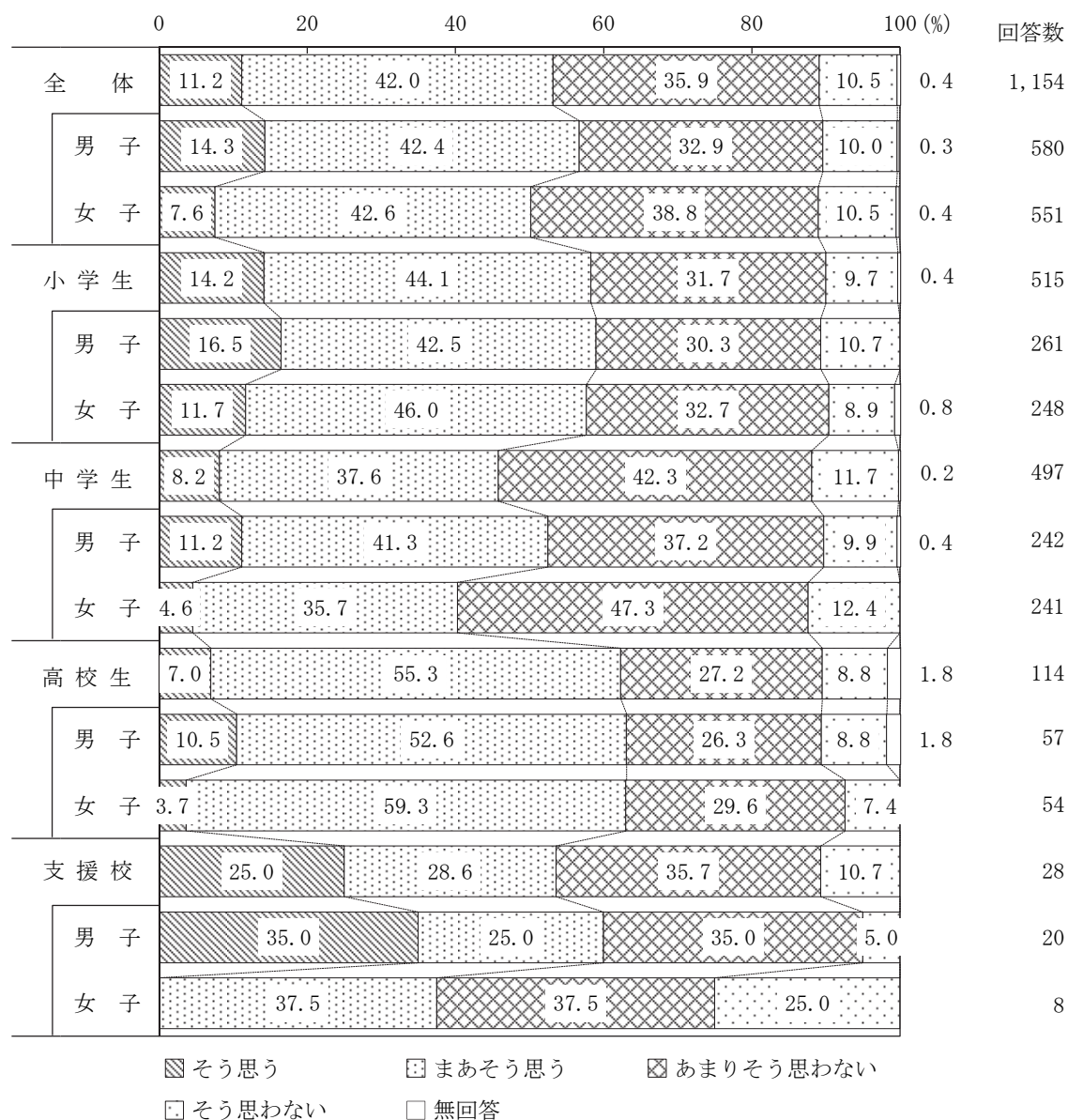
(注)「わからない」は子どもの選択肢にありません。

(4) 自分の考えや行動に自信がある

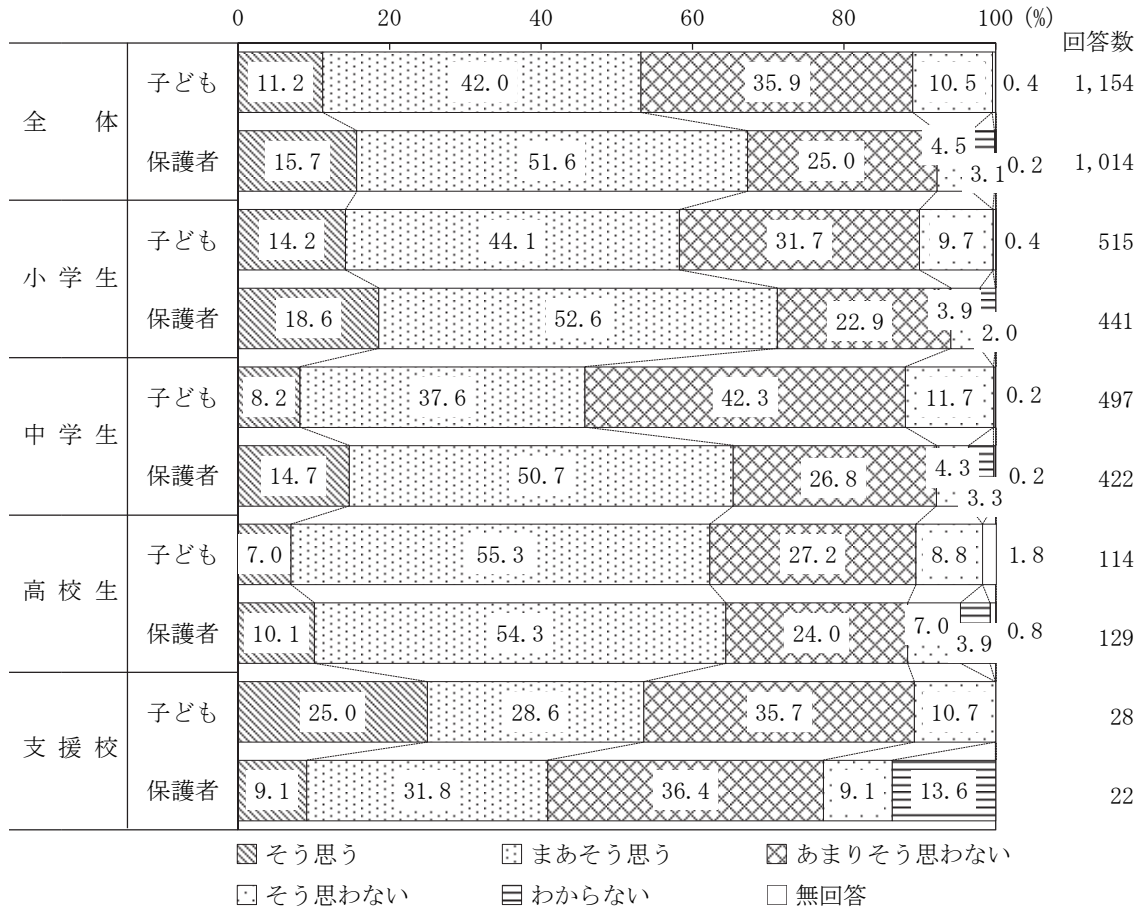
子どもの「自分の考えや行動に自信がある」と「思う」(「そう思う」+「まあそう思う」)率は53.2%、「思わない」(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)率は46.4%となっています。「思う」は、性別では男子、学校別では高校生が高くなっています(図表13)。

保護者は、「思う」が67.3%、「思わない」が29.5%となっています(図表14)。

図表13 自分の考えや行動に自信がある(子ども:問3-④)



図表14 自分の考えや行動に自信がある（子ども：問3-④）と子どもは自分の考えや行動に自信があると思っている（保護者：問4-④）の比較



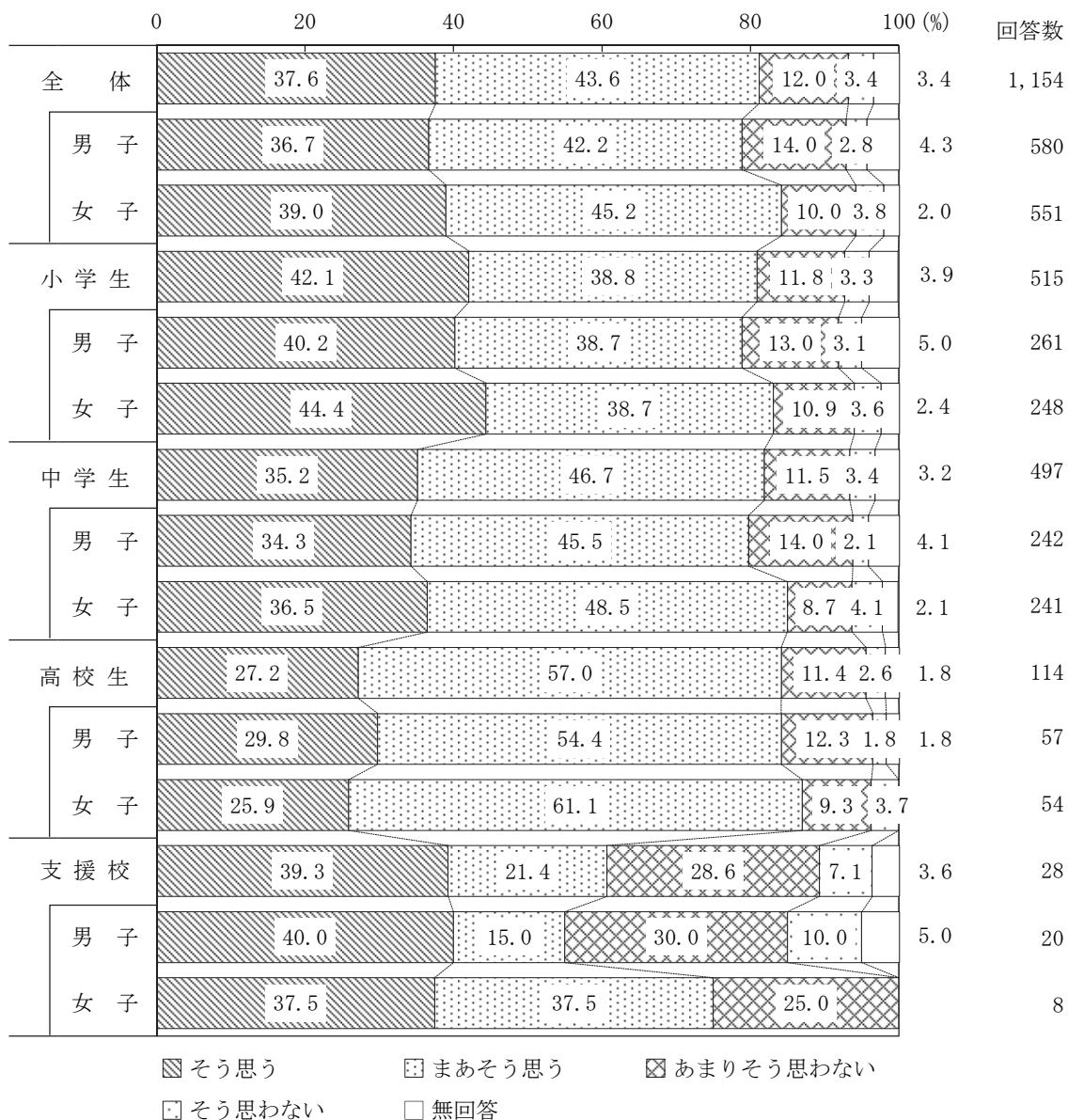
(注) 「わからない」は子どもの選択肢にありません。

(5) 自分の考えを話したり、仲間といっしょに活動したりできる

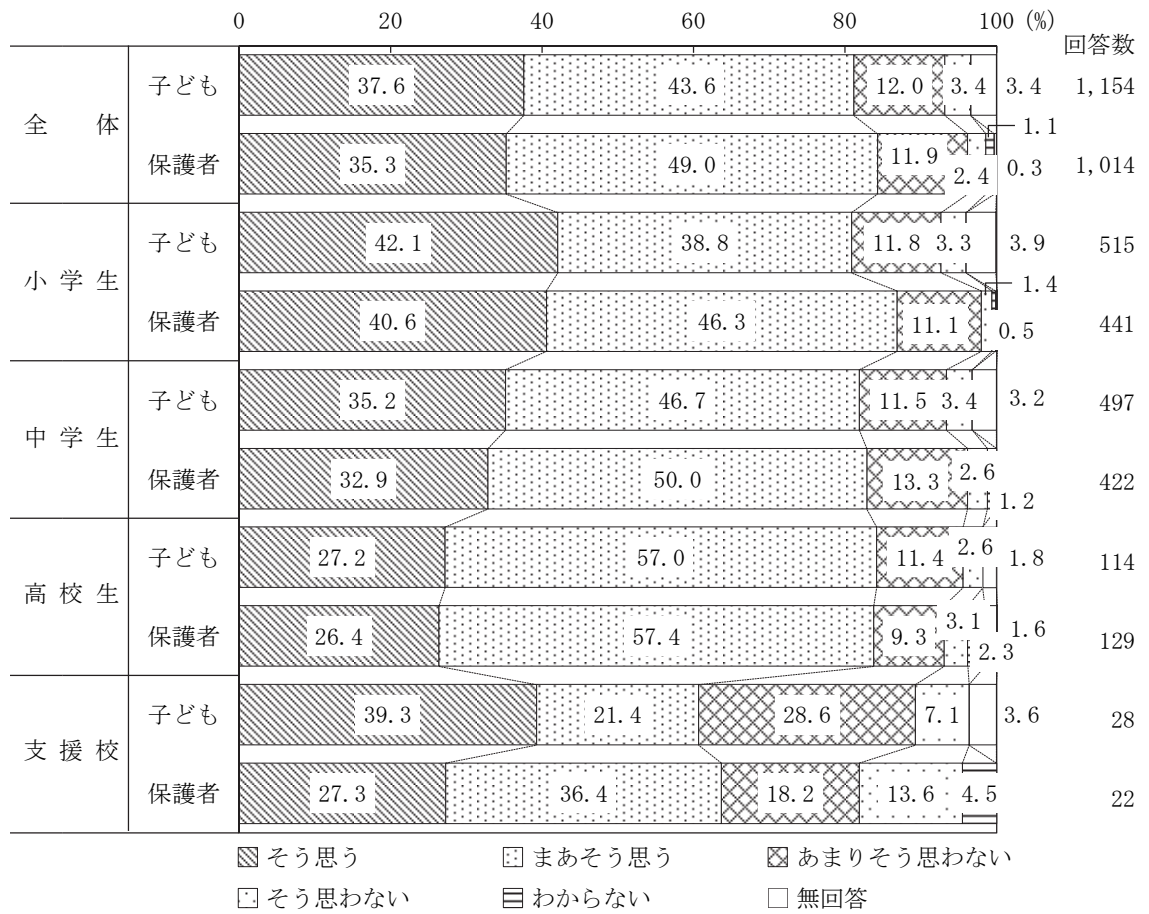
子どもの「自分の考えを話したり、仲間といっしょに活動したりできる」と「思う」（「思う思う」＋「まあそう思う」）率は、81.2%と高い率を示しています。この率は、性別では男子、学校別では特別支援学校が低くなっています（図表15）。

保護者の「思う」率も84.3%と、子どもと近い率です（図表16）。

図表15 自分の考えを話したり、仲間といっしょに活動したりできる（子ども：問3-⑤）



図表16 自分の考えを話したり、仲間といっしょに活動したりできる（子ども：問3-⑤）と子どもは自分の考えを話したり、仲間といっしょに活動したりできる（保護者：問4-⑤）の比較



(注) 「わからない」は子どもの選択肢にありません。

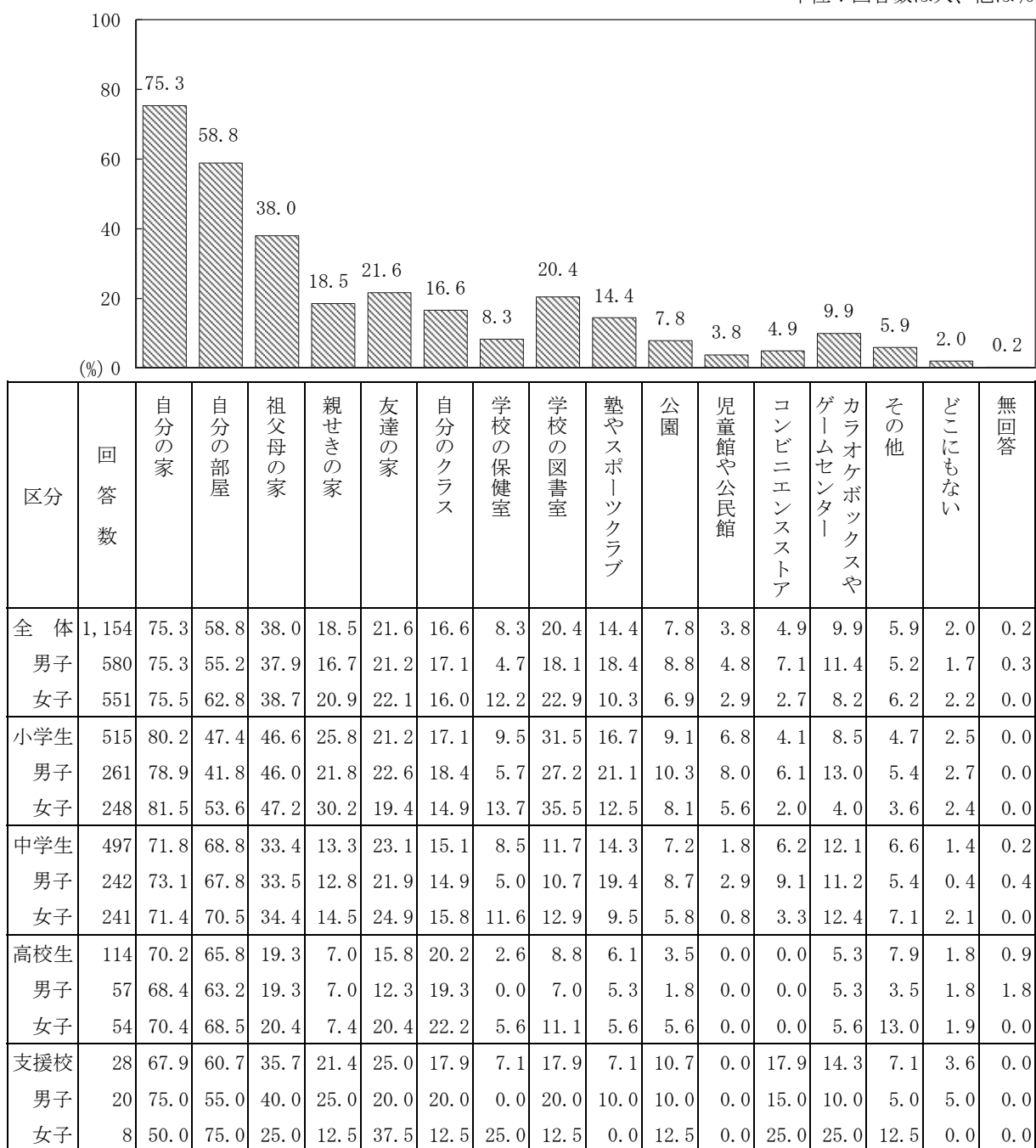
2 安心してホッとできる場所 (子ども：問4 保護者：問5)

子どもの安心してホッとできる場所は、「自分の家」(75.3%)、「自分の部屋」(58.8%)、「祖父母の家」(38.0%)、「友達の家」(21.6%)及び「学校の図書室」(20.4%)が、20%を超えています。「塾やスポーツクラブ」「カラオケボックスやゲームセンター」などは男子が高く、「自分の部屋」「学校の保健室」「学校の図書室」などは女子が高くなっています(図表17)。

図表18の保護者に聞いた子どもが安心してホッとできる場所と比較すると、「自分の家」「祖父母の家」以外の場所は、子どものほうが高くなっています。

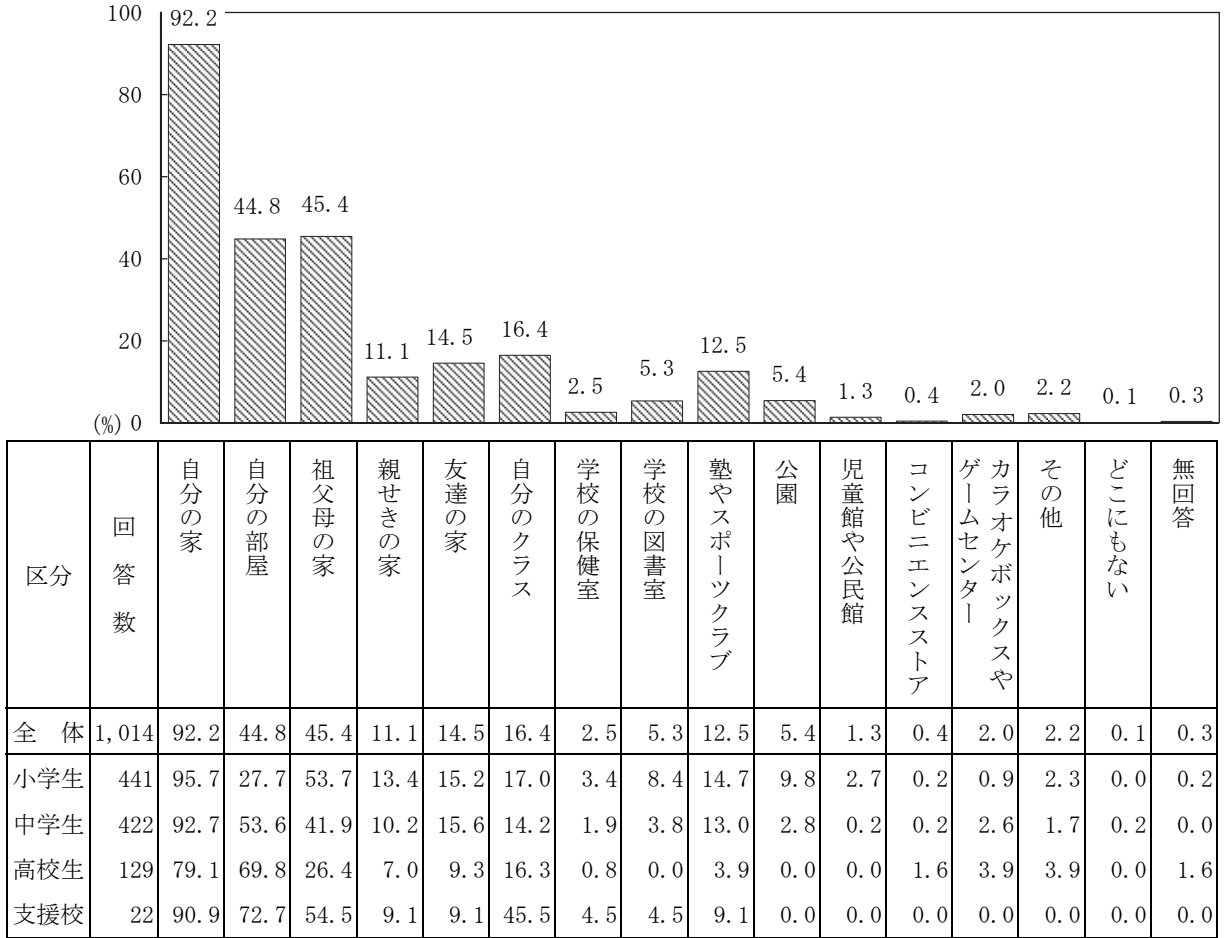
図表17 安心してホッとできる場所 (子ども：問4・複数回答)

単位：回答数は人、他は%



図表18 子どもが安心してホッとできる場所（保護者：問5・複数回答）

単位：回答数は人、他は%



第1部 調査結果

図表19は、「その他」に記入されていた具体的な場所です。

図表19 子どもが安心してホッとできる「その他」の場所（子ども：問4-14 保護者：問5-14）

区分	子どもの学年	記 入 内 容	
子 ど も	小 学 校	4年生	県立図書館 自宅のトイレ お風呂 ホテル 県外の水族館 畳の部屋 こじんまりしている所 秘密基地 プロレス岐阜産業会館 自分の家の寝室 こたつの中
		5年生	図書館 楽しい所 学校の教室 学校の運動場 車の中 プール
		6年生	図書館 市外のショッピングセンター 電車 すみっこ 外 レストラン バッティングセンター
	中 学 校	1年生	本屋（2件） トイレ ベッド 布団の中 お風呂 寝室 自分の家のすみっこ 布団の中、段ボールの中 どこか友達と遊ぶところ 自然がたくさんあるところ すみっこなどの目立たない場所 映画館
		2年生	本屋（2件） コンサート（2件） 県立図書館 布団の中 ねること 大阪
		3年生	トイレ（2件） 県立図書館 コンサート ベッド 海、川、湖、池 押し入れの中 わからない（きまぐれ） 温泉、リラックスできる場所 駅 鳥取県 部活 市や県の図書館
	高 校	1年生	自宅のトイレ スキー場
		2年生	彼氏の家 自分以外の人がない場所 いろいろな場所 お母さんと会えること ショッピングセンター
		3年生	トイレ 岐阜市内
保 護 者	小 学 校	4年生	県図書館、科学館 お風呂 川、海 習い事 車の中、トイレ
		5年生	市立図書館 母の仕事場 学校のグラウンド
		6年生	バイオリン教室 本屋
	中 学 校	1年生	母と買い物
		2年生	同居している祖父の部屋、トイレ 市外のショッピングセンター 習い事
		3年生	部活（2件） 図書館
	高 校	1年生	部活（学校）
		2年生	下宿先のアパート（まだ下宿していませんが、早くひとり暮らししたいと常々言っているのです）
		3年生	部活の仲間といるとき 一般の相談所 トイレ

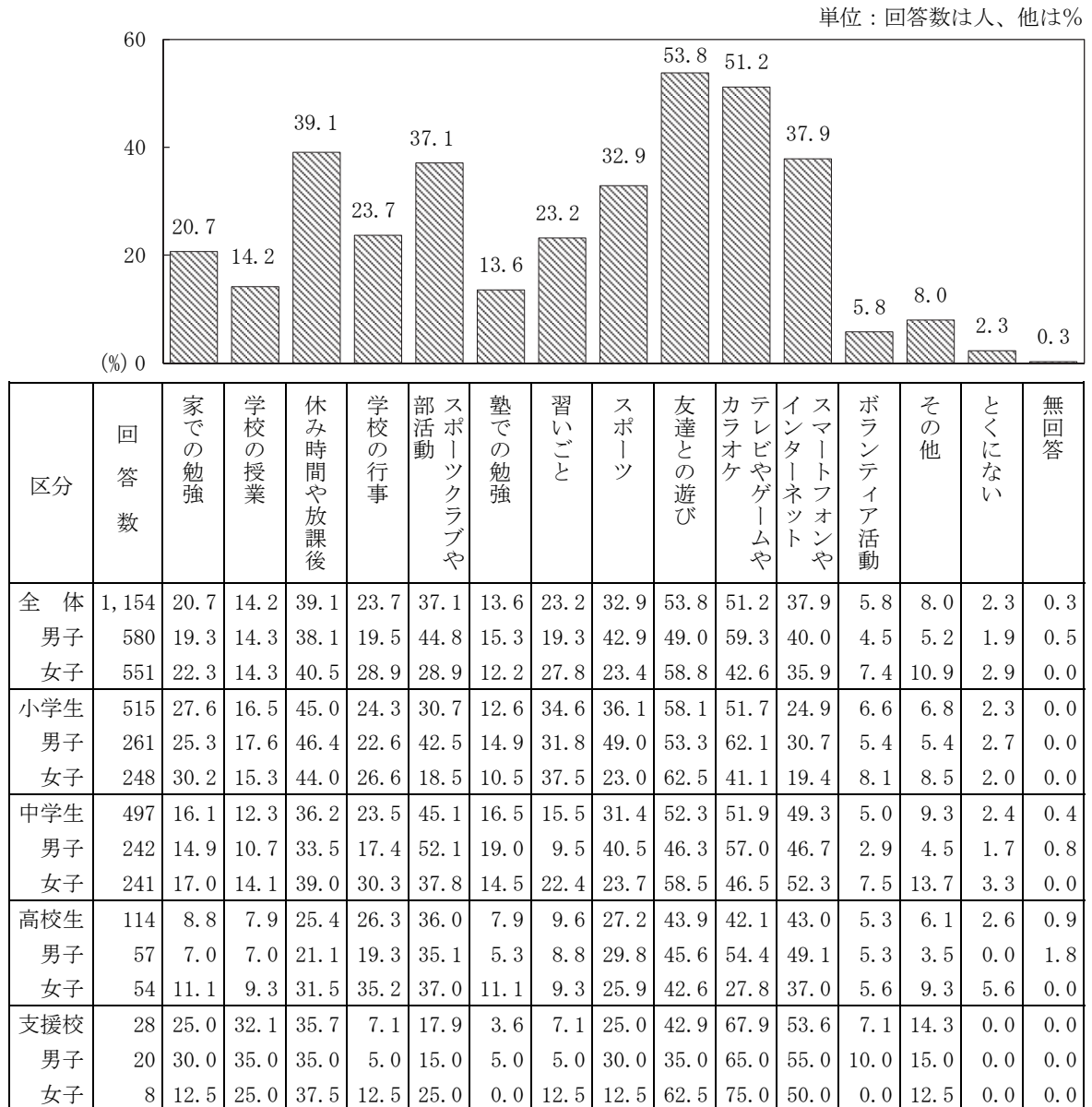
（注）特別支援学校は、高校に含めました。（以下「その他」の記入について同じ）

3 熱中したり、夢中になったりできるとき (子ども：問5 保護者：問6)

子どもの熱中したり、夢中になったりできるときについては、男子は「テレビやゲームやカラオケ」(59.3%)、「友達との遊び」(49.0%)、「スポーツクラブの活動や部活動」(44.8%)、「スポーツ」(42.9%)及び「スマートフォンやインターネット」(40.0%)、女子は「友達との遊び」(58.8%)、「テレビやゲームやカラオケ」(42.6%)及び「休み時間や放課後」(40.5%)が、40%を超えています。「友達との遊び」は小学生女子と特別支援学校女子が、「テレビやゲームやカラオケ」は特別支援学校の男女が高い率を示しています(図表20)。

子どもが熱中したり、夢中になったりできるときを保護者に聞いた結果は、「友達との遊び」(59.0%)が最も高く、次いで「テレビやゲームやカラオケ」(51.0%)、「スポーツクラブの活動や部活動」(43.5%)などとなっています(図表21)。

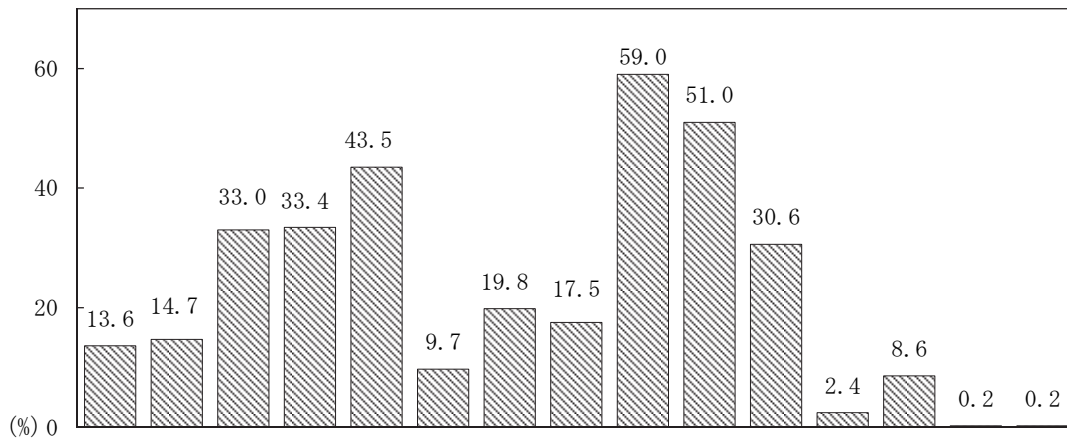
図表20 熱中したり、夢中になったりできるとき (子ども：問5・複数回答)



第1部 調査結果

図表21 子どもが熱中したり、夢中になったりできるとき（保護者：問6・複数回答）

単位：回答数は人、他は%



区分	回答数	家での勉強	学校の授業	休み時間や放課後	学校の行事	部活動	スポーツクラブや	塾での勉強	習いごと	スポーツ	友達との遊び	カラオケ	テレビやゲームや	スマートフォンや	インターネット	ボランテニア活動	その他	とくにない	無回答
全体	1,014	13.6	14.7	33.0	33.4	43.5	9.7	19.8	17.5	59.0	51.0	30.6	2.4	8.6	0.2	0.2			
小学生	441	13.4	16.8	47.4	40.1	36.3	4.8	30.2	19.0	71.0	59.2	15.9	2.0	9.1	0.2	0.0			
中学生	422	12.8	12.6	24.4	28.0	52.8	16.1	12.8	17.8	51.2	47.6	37.2	2.4	8.3	0.2	0.2			
高校生	129	13.2	10.1	14.0	25.6	38.0	7.0	8.5	12.4	47.3	34.1	54.3	3.1	6.2	0.0	0.8			
支援校	22	36.4	40.9	22.7	50.0	40.9	0.0	13.6	9.1	36.4	50.0	59.1	4.5	18.2	0.0	0.0			

図表22は、「その他」に記入されていた子どもの熱中したり、夢中になったりできるときですが、子ども、保護者の多くが、「読書」をあげています。

図表22 子どもが熱中したり、夢中になったりできる「その他」のとき（子ども：問5-13 保護者：問6-13）

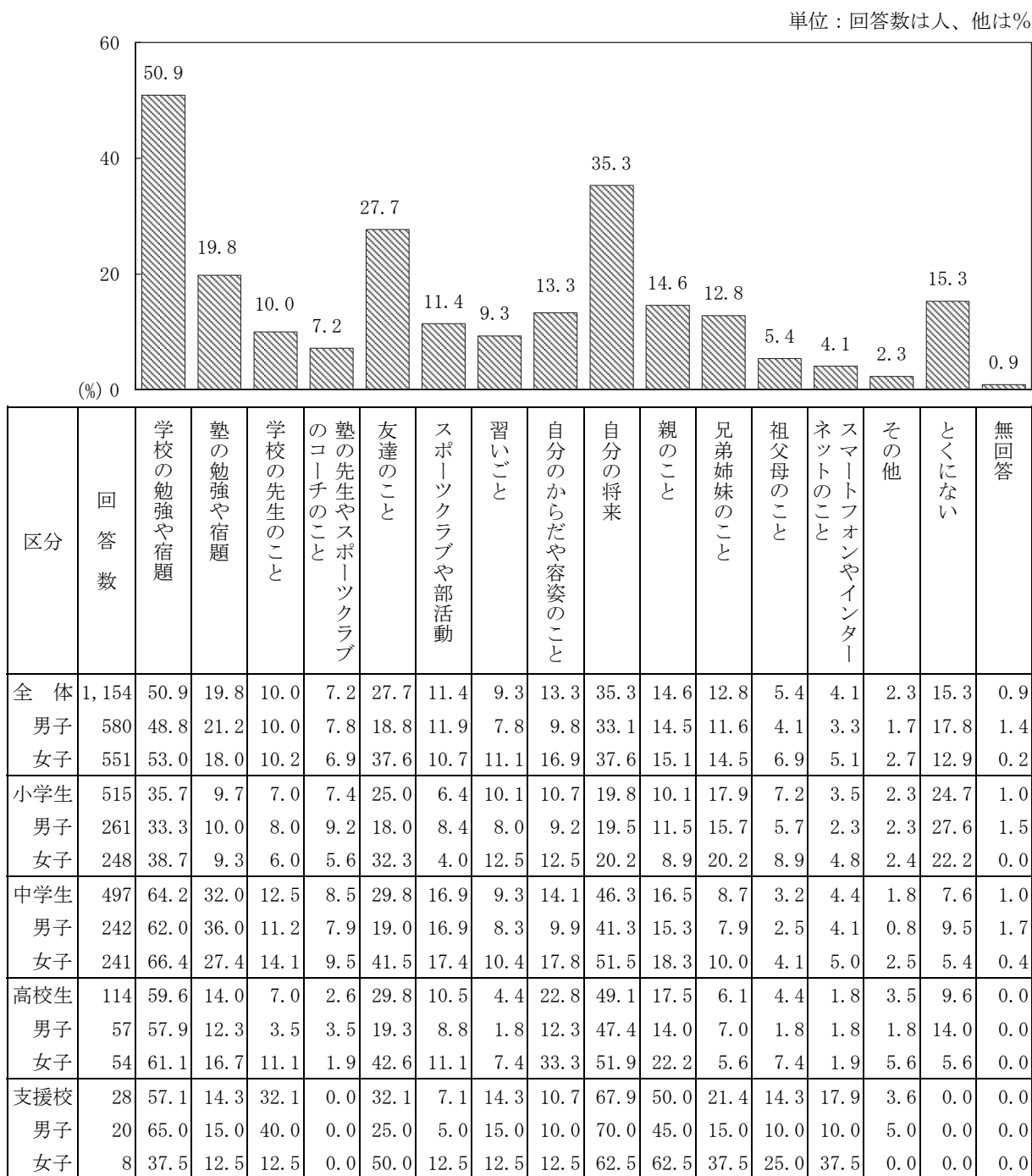
区分	子どもの学年	記 入 内 容	
子 ど も	小 学 校	4年生	読書（6件） 漫画 絵を描くこと 読書、ダンス、ピアノ 自宅でドールハウスで遊んでいるとき ブロックや鉄道玩具を組み立てているとき プラモデルを作るとき 家族と一緒にいるとき 自分の家でトイレをしているとき 虫を捕まえること
		5年生	読書（5件） 本・漫画を読むとき ショッピング 先生に怒られてむかむかするとき 静かなところで勉強 やる気になったこと
		6年生	読書（6件） 趣味のことをしているとき 手芸、編み物
	中 学 校	1年生	読書（5件） 料理 買い物や料理 工作 好きなアイドルを見ること 音楽鑑賞家でかたるたをやっているとき 男性アイドルグループのコンサートDVDを見る 好きなアニメやキャラクターができたとき 得意なことをゆっくりすること 歌手（音楽グループ）の歌 自転車に乗っているとき
		2年生	読書（2件） 絵を描くこと 料理 手芸、料理 コンサート 作業（ものづくり） 創作活動 自転車を改造すること 菓子作り ギター 切り絵 いろいろと プラモデル 歌を聴く、絵を描く
		3年生	読書（6件） 漫画 絵を描くこと 料理 コンサート 工作 テニスコート 釣り、折り紙 アイドル ラジオ
	高 校	1年生	読書（2件） 趣味 トイレ 水泳 電車
		2年生	趣味（2件） 読書 絵を描くこと 航空自衛隊のアクロバット飛行
		3年生	漫画、アニメ、お絵かき 美容（ヘアケアなど） 景色を眺める いとことのコミュニケーション
保 護 者	小 学 校	4年生	読書（3件） 絵を描くこと（3件） 家で図工をしたり絵を描いたりしているとき 自分の趣味など好きなことをしているとき プラモデル作り 家族でレジャー 好きなアイドルの動画を見て歌ったり踊ったりしているとき 犬 おしゃべりをしているとき 川、海 家での遊び
		5年生	読書（8件） 自分で思いついた遊びをしているとき ダンス 兄弟との遊び スケートボード 親子での遊びの時間 新聞記事をまとめる趣味 弟とボードゲーム
		6年生	読書（3件） 本、漫画（2件） 好きな音楽を聴くとき 趣味の時間 音楽 一人の時間 弟妹と遊ぶとき、親と遊ぶとき 趣味のラジコン
	中 学 校	1年生	読書（6件） 読書、本屋 絵を描くこと 自分の趣味（楽器） 家の中 漫画
		2年生	読書（4件） 絵を描くこと（2件） 読書や音楽を聴いているとき 自分の趣味 ギター
		3年生	読書（8件） 好きな音楽を聴くとき スマホで音楽を聴くこと ラジオ、ポータブルオーディオプレイヤー 合唱祭やそれに向けての練習 ファンの芸能人に関すること 家事 自由な時間 映画鑑賞、レンタルDVD
	高 校	1年生	放課後デイサービス
		2年生	読書（2件） 趣味（2件） アルバイト ピアノをひいているとき カードゲーム 釣り
		3年生	絵を描くこと アルバイト 鉄道の写真を撮ること 男性アイドルグループのTV

4 疲れたり、傷ついたり、不安に思うこと（子ども：問6 保護者：問7）

子どもの疲れたり、傷ついたり、不安に思うことは、「学校の勉強や宿題」（50.9%）が最も高く、次いで「自分の将来（進路や受験など）」（35.3%）となっています。「学校の勉強や宿題」は中学生が、「自分の将来（進路や受験など）」は特別支援学校生徒と高校生が高くなっています（図表23）。

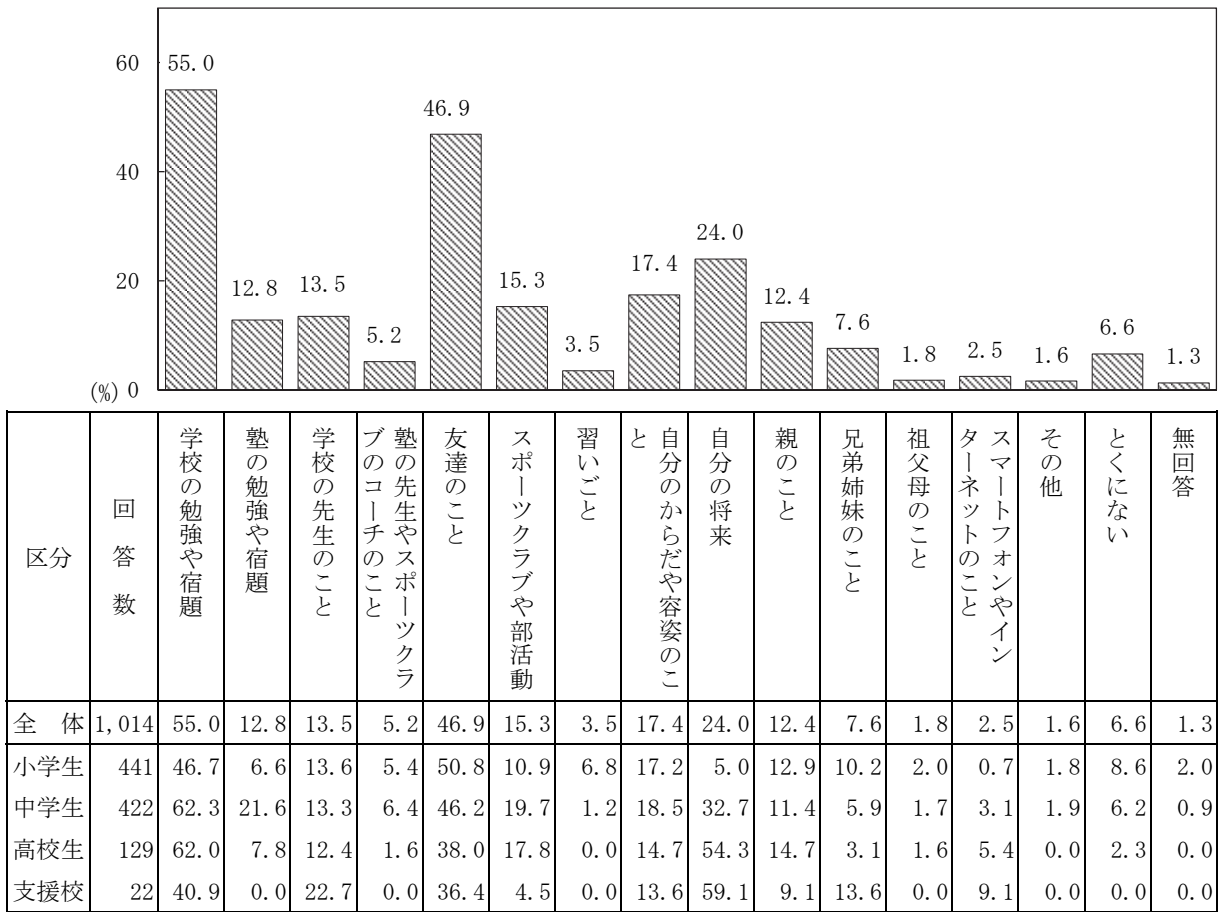
保護者も、「学校の勉強や宿題」（55.0%）が最も高くなっていますが、二番目は「友達のこと」（46.9%）です（図表24）。

図表23 疲れたり、傷ついたり、不安に思うこと（子ども：問6・複数回答）



図表24 子どもが疲れたり、傷ついたり、不安に思うこと（保護者：問7・複数回答）

単位：回答数は人、他は%



図表25は、「その他」に記入されていた子どもが疲れたり、傷ついたり、不安に思うことです。

図表25 子どもが疲れたり、傷ついたり、不安に思う「その他」のこと（子ども：問6-14 保護者：問7-14）

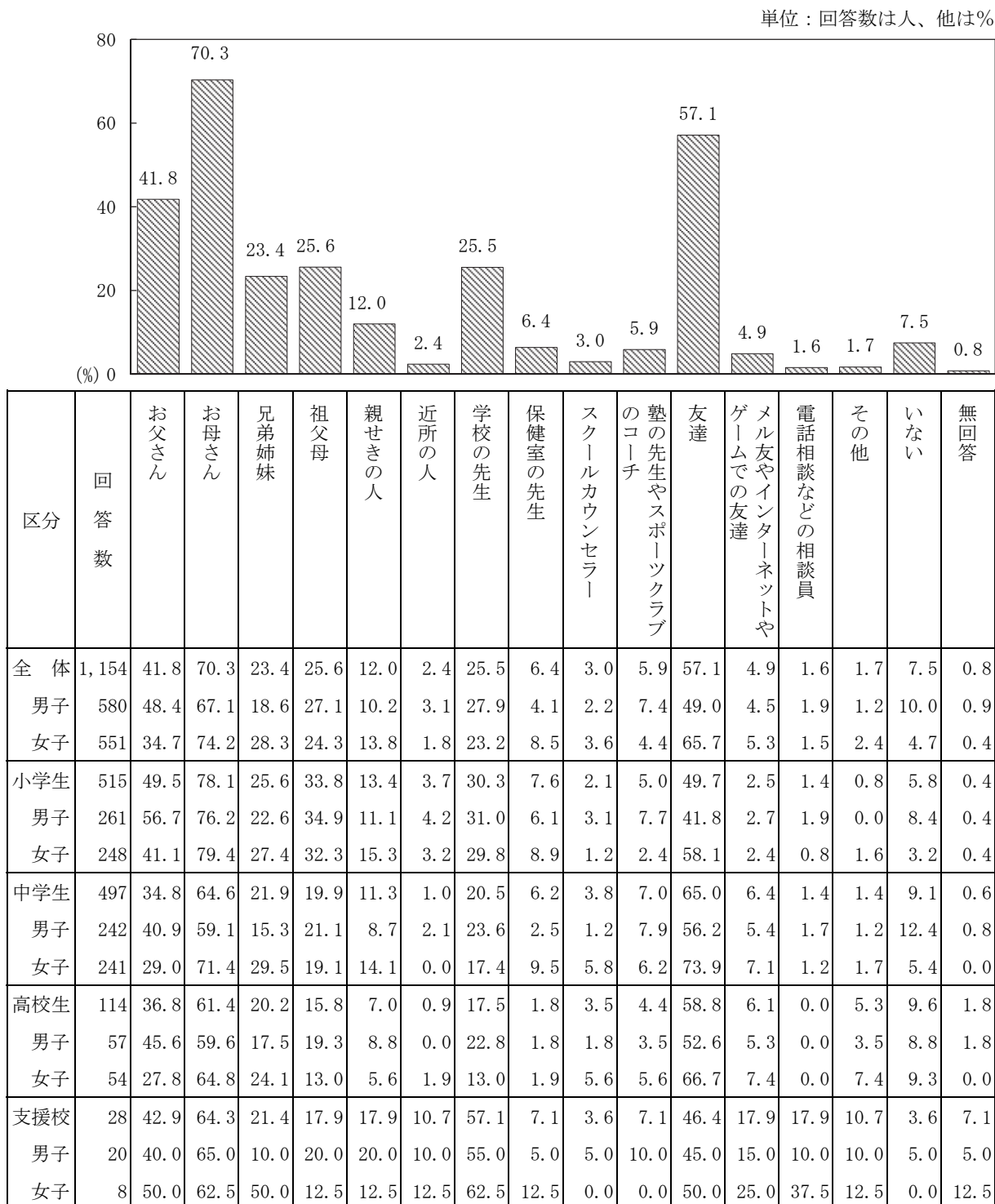
区分	子どもの学年	記入内容	
子ども	小学校	4年生	親が今どんな気分か 委員会のこと
		5年生	登下校（2件） 思い出し笑い
		6年生	自分は人から嫌な目で見られていないか 人間関係 中学校、学校 ちょっとしたいじめ 他の人の親 学校のこと
	中学校	1年生	先輩のこと クラスの人（特に男子） 生徒会の掲示 学校のこと
		2年生	病気のこと クラスメイト 同じクラスの人のこと 学校行事
	高校	2年生	バイト（2件） 人生について 仕事（傷つきはしないよ） クラスにいと疲れる
保護者	小学校	4年生	授業中クラスメイトがうるさいこと 部活の顧問に暴言を吐かれ傷ついた 土曜授業 地震、大洪水など災害、不審者
		5年生	クラスメイトの行動、言動 ゲームの時間を決めていること 上級生とのこと
		6年生	自然災害や戦争のニュースなどの番組
	中学校	1年生	クラスのこと 学校のテスト 人間関係 クラスの中で重要な役をまかされたとき（スポ少や部活の）先輩の言った言葉
		2年生	クラスのこと クラスの人間関係 学校生活全般

5 悩んだり、困ったりしたときの相談相手 (子ども：問7 保護者：問8)

子どもの相談相手としては、「お母さん」(70.3%)が最も高く、次いで「友達」(57.1%)、「お父さん」(41.8%)などとなっており、「いない」が7.5%ありました(図表26)。

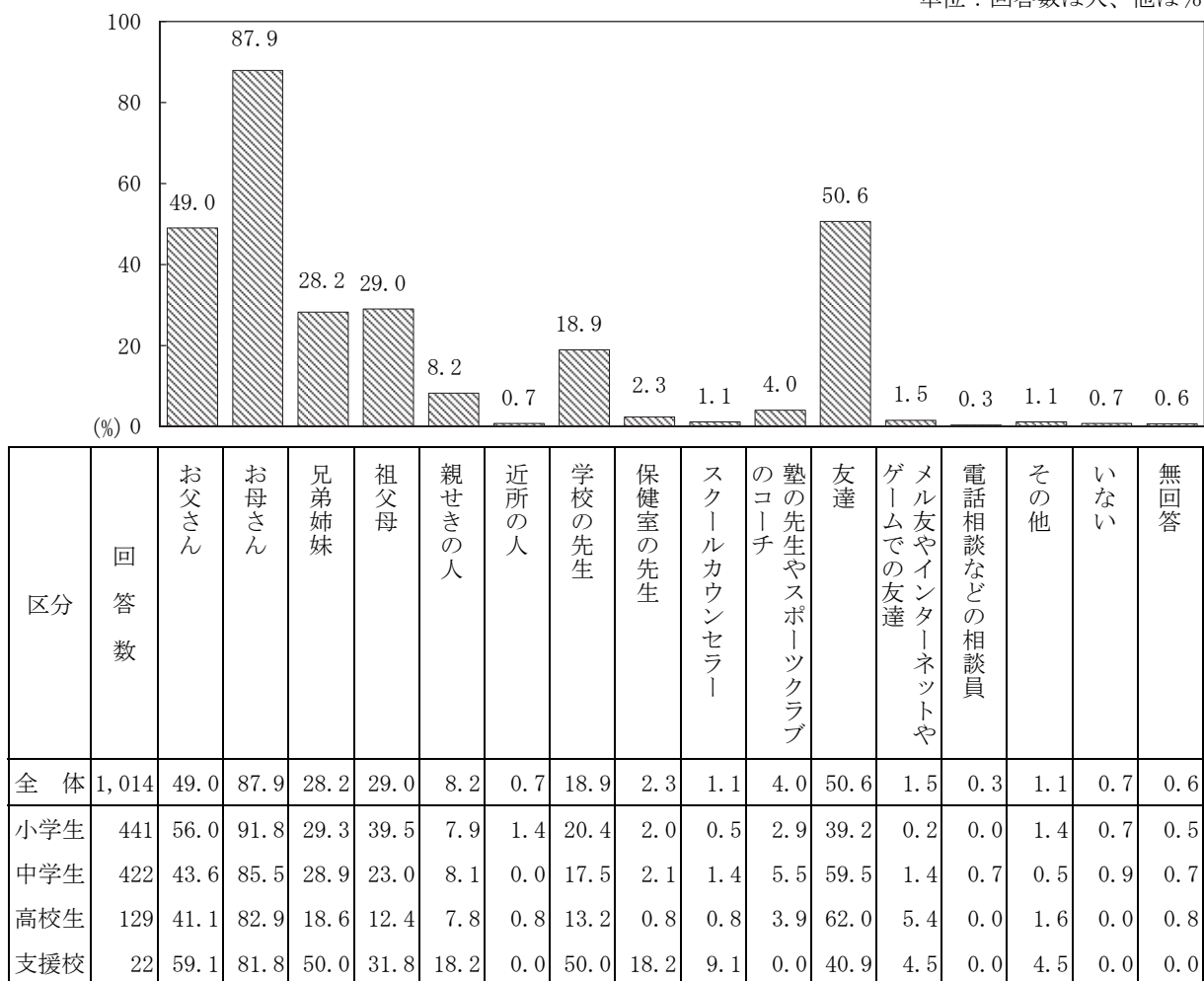
保護者に聞いた子どもの相談相手も、「お母さん」(87.9%)、「友達」(50.6%)、「お父さん」(49.0%)と、子どもと同じ順序ですが、「いない」は0.7%しかありません(図表27)。

図表26 子どもの相談相手 (子ども：問7・複数回答)



図表27 子どもの相談相手（保護者：問8・複数回答）

単位：回答数は人、他は%



第1部 調査結果

図表28は、「その他」に記入されていた子どもの相談相手です。

図表28 「その他」の子どもの相談相手（子ども：問7-14 保護者：問8-14）

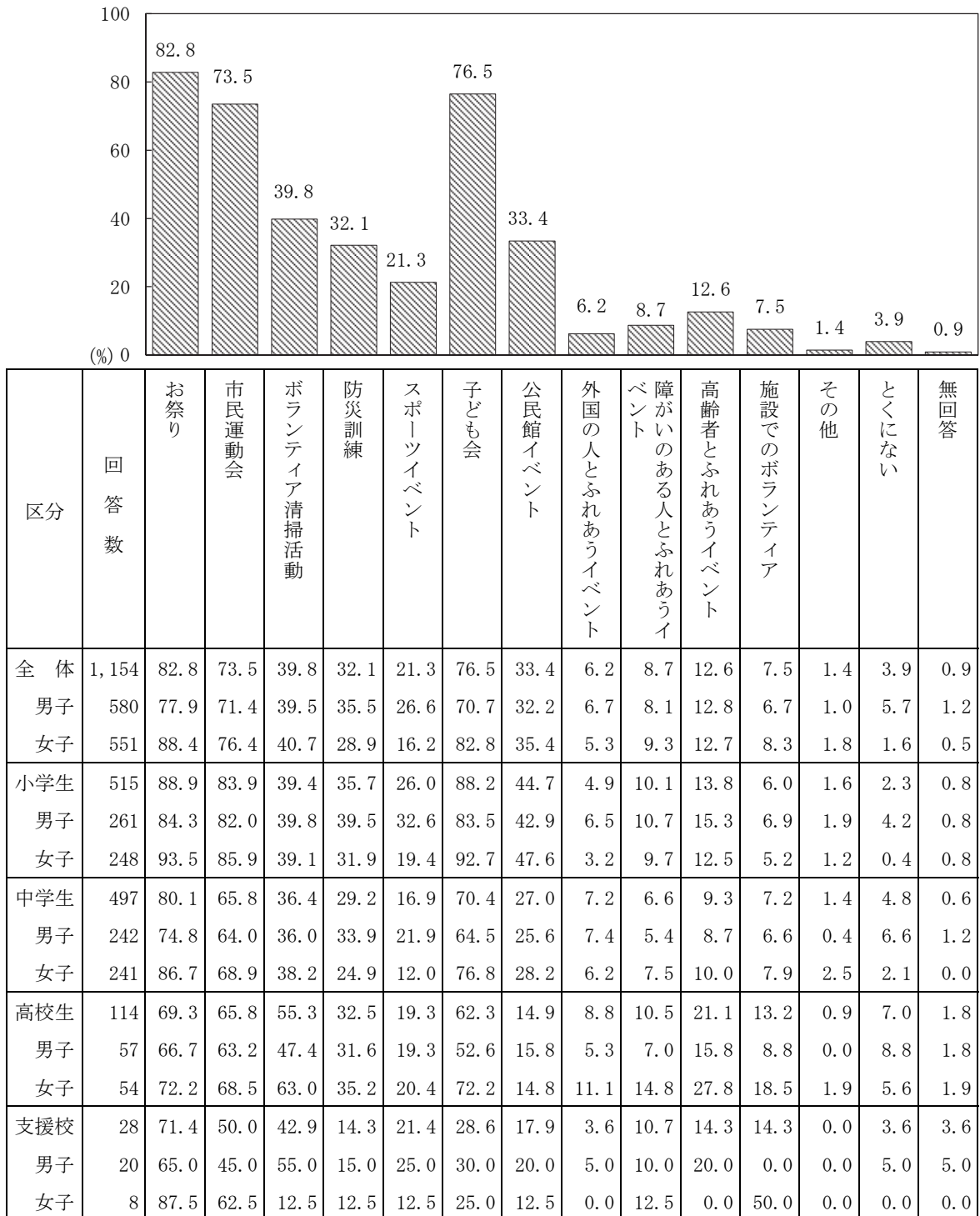
区分	子どもの学年	記 入 内 容	
子 ど も	小 学 校	4年生	図書館の先生 犬、自分の家の犬 知っている人ならみんなに
		6年生	SNS
	中 学 校	1年生	自分 小学校の時の保健室の先生
		2年生	勉強
		3年生	トイレ
	高 校	1年生	児童養護施設の大人
		2年生	彼氏 いろんな人 職員さん 先輩や先生
		3年生	彼氏
	保 護 者	小 学 校	4年生
5年生			キリスト教会のスタッフ（教会員）
6年生			友だちのお父さんとお母さん
中学		3年生	心療内科の先生とのカウンセリング
高 校		1年生	友達の親 施設職員
		3年生	一般の相談所のスタッフ

6 参加したことがある活動（子ども：問8）

子どもが参加したことがある活動は、「お祭り」（82.8%）、「子ども会」（76.5%）及び「市民運動会」（73.5%）が、70%以上の高い率です。この3つについては、年齢が上昇するにつれて低下する傾向がみられます。

図表29 参加したことがある活動（子ども：問8・複数回答）

単位：回答数は人、他は%



第1部 調査結果

図表30は、「その他」に記入してあった子どもが参加したことがある活動です。

図表30 「その他」の参加したことがある活動（子ども：問8-12）

子どもの学年		記 入 内 容
小 学 校	4年生	市外のショッピングセンターの祭り
	5年生	ウォークラリー（3件） ラジオ体操 わんぱく相撲 小さい子とふれあう会（幼稚園より下）
	6年生	募金活動
中 学 校	1年生	地域のイベント
	2年生	小学校の行事にボランティアで参加した 資源回収
	3年生	地域活性化のイベント
高校	1年生	幼稚園児とのふれあい

第4 保護者やまわりのおとな

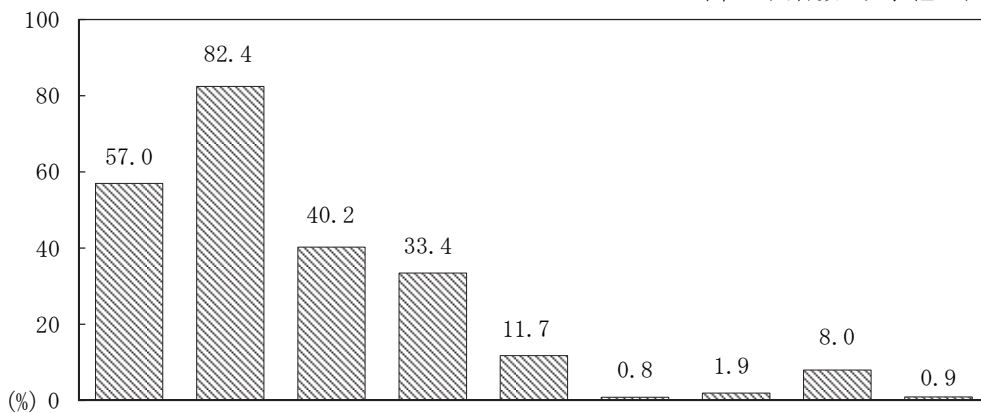
1 子どものことをよくわかってくれる人 (子ども：問9 保護者：問9)

子どもと一緒に暮らしている人の中で、自分のことをよくわかってくれる人は、「お母さん」(82.4%)、「お父さん」(57.0%)、「兄弟姉妹」(40.2%)、「祖父母」(33.4%)の順になっています。「お父さん」は男子、「お母さん」は女子が高い傾向がみられます(図表31)。

同じ設問を保護者に聞いた結果が図表32ですが、子どもと同様の傾向が出ています。

図表31 自分のことをよくわかってくれる人 (子ども：問9・複数回答)

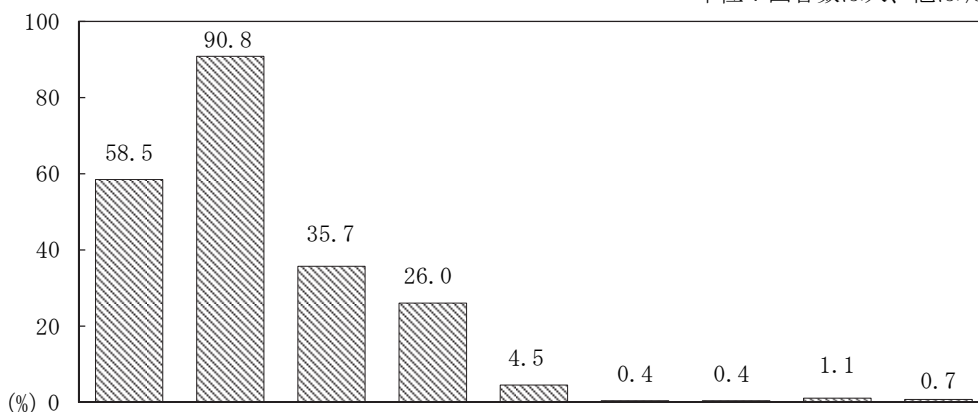
単位：回答数は人、他は%



区分	回答数	お父さん	お母さん	兄弟姉妹	祖父母	親せきの人	一緒に暮らす施設の職員	その他	とくにいない	無回答
全体	1,154	57.0	82.4	40.2	33.4	11.7	0.8	1.9	8.0	0.9
男子	580	62.8	81.0	36.4	35.3	12.2	1.0	1.9	7.4	1.2
女子	551	50.5	84.0	44.1	31.2	11.3	0.5	2.0	8.5	0.4
小学生	515	64.9	87.4	43.7	46.2	15.1	0.8	1.9	4.9	1.0
男子	261	70.1	85.4	39.5	48.7	15.3	1.5	2.3	5.0	1.1
女子	248	58.9	89.1	47.2	43.1	14.5	0.0	1.6	4.8	0.8
中学生	497	52.5	78.1	39.2	24.3	10.3	0.2	2.0	10.7	0.4
男子	242	57.9	75.6	34.7	25.6	11.2	0.4	1.2	10.3	0.8
女子	241	46.1	80.5	44.4	22.8	10.0	0.0	2.9	11.2	0.0
高校生	114	43.0	79.8	28.9	17.5	1.8	0.9	0.9	10.5	1.8
男子	57	56.1	86.0	31.6	21.1	1.8	0.0	1.8	5.3	1.8
女子	54	29.6	75.9	25.9	13.0	1.9	1.9	0.0	14.8	0.0
支援校	28	50.0	78.6	39.3	25.0	14.3	10.7	3.6	7.1	3.6
男子	20	45.0	75.0	30.0	20.0	15.0	5.0	5.0	10.0	5.0
女子	8	62.5	87.5	62.5	37.5	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0

図表32 子どものことをよくわかってくれる人（保護者：問9・複数回答）

単位：回答数は人、他は%



区分	回答数	お父さん	お母さん	兄弟姉妹	祖父母	親せきの人	一緒に暮らす施設の職員	その他	とくにいない	無回答
全体	1,014	58.5	90.8	35.7	26.0	4.5	0.4	0.4	1.1	0.7
小学生	441	64.4	90.0	35.4	31.3	5.4	0.2	0.7	0.9	0.9
中学生	422	56.9	91.7	36.5	21.6	3.8	0.0	0.2	1.4	0.5
高校生	129	44.2	90.7	30.2	23.3	3.1	0.8	0.0	0.8	0.8
支援校	22	54.5	90.9	59.1	22.7	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0

子どものことをよくわかってくれる人として、「その他」に記入されていたのは次のとおりです。

図表33 子どものことをよくわかってくれる「その他」の人（子ども：問9-7、保護者：問9-7）

区分	子どもの学年	記入内容	
子ども	小学校	4年生	友達（3件） 学校の先生
		5年生	友達
		6年生	友達（4件）
	中学校	1年生	友達 犬
		2年生	友達（2件） 自分 犬
		3年生	自分（2件） トイレ
高校	3年生	学校の先生 金魚、インコなど	
保護者	小学	4年生	友達 祖母のお稽古仲間の方々 担任の先生
	中学	3年生	友達

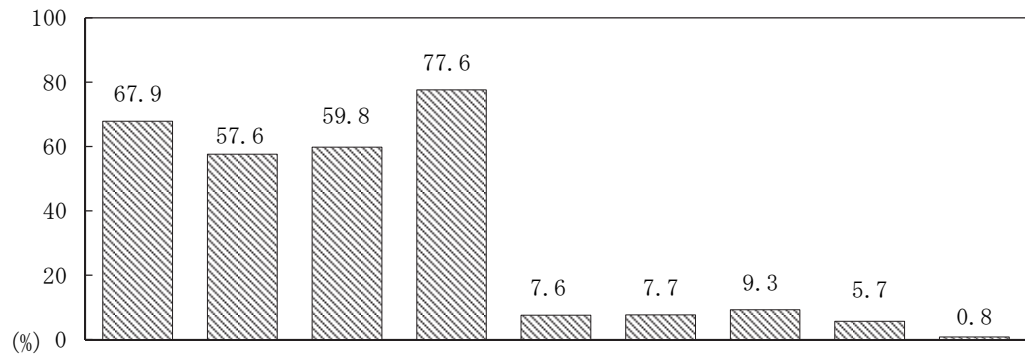
2 子どものまわりのおとなについて感じていること (子ども:問10 保護者:問11)

(1) 保護者

子どもが自分の保護者について感じていることとしては、「よくないことをしたときには、注意したり叱ったりしてくれる」(77.6%)をはじめ、プラス評価の4選択肢が高く、マイナス評価の3選択肢は低くなっています(図表34)。図表35の保護者に聞いた結果と比較すると、「話をしっかり聞いてくれる」は子どもが高く、「意見を押しつけてくる」は保護者が高くなっています。

図表34 保護者について感じていること (子ども:問10-A・複数回答)

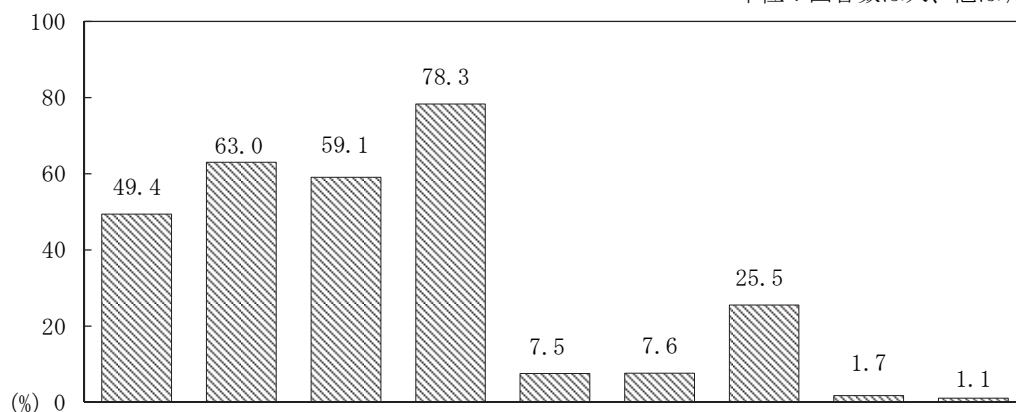
単位:回答数は人、他は%



区分	回答数	話をしっかり聞いてくれる	悩みや困りごとの相談にのってくれる	よいところを認めてくれる	よくないことをしたとき叱ったりして注意してくれる	相談にのったり、話し相手になったりしてくれない	自分のことをけなしたり、悪く言ったりする	意見を押し付けてくる	とくに感じていることはない	無回答
全体	1,154	67.9	57.6	59.8	77.6	7.6	7.7	9.3	5.7	0.8
男子	580	64.0	50.7	54.0	72.4	6.6	7.8	10.0	7.1	0.9
女子	551	72.2	65.2	66.2	83.5	8.3	7.8	8.5	4.4	0.4
小学生	515	74.0	64.9	67.6	83.7	7.2	7.0	5.6	4.1	0.8
男子	261	71.3	61.7	63.2	81.6	5.7	6.9	6.5	5.0	0.8
女子	248	76.2	67.7	72.2	85.9	8.5	7.3	4.8	3.2	0.8
中学生	497	63.6	51.5	56.3	75.1	8.2	7.4	10.9	6.8	0.4
男子	242	57.0	40.5	48.8	66.9	7.4	8.3	11.2	9.1	0.4
女子	241	70.5	63.1	63.9	84.2	8.3	6.6	10.4	4.6	0.0
高校生	114	59.6	50.9	44.7	64.9	4.4	11.4	14.9	7.9	1.8
男子	57	57.9	42.1	36.8	59.6	5.3	10.5	14.0	8.8	1.8
女子	54	63.0	61.1	55.6	70.4	3.7	13.0	16.7	7.4	0.0
支援校	28	67.9	60.7	39.3	60.7	17.9	10.7	25.0	7.1	3.6
男子	20	70.0	55.0	45.0	55.0	10.0	5.0	30.0	5.0	5.0
女子	8	62.5	75.0	25.0	75.0	37.5	25.0	12.5	12.5	0.0

図表35 子どもが保護者について感じていること（保護者：問11-A・複数回答）

単位：回答数は人、他は%



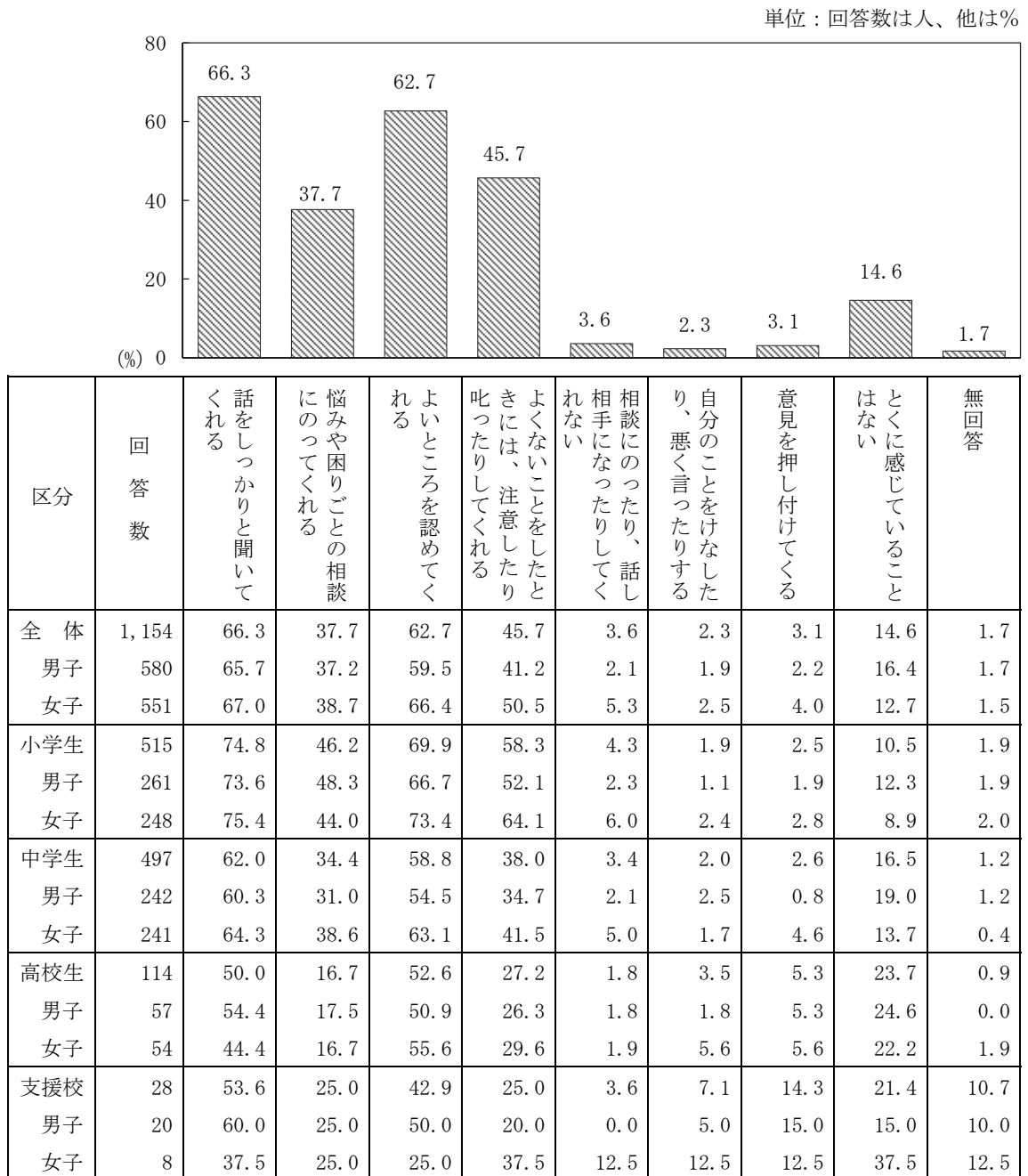
区分	回答数	話をしっかりと聞いてくれる	悩みや困りごとの相談にのってくれる	よいところを認めてくれる	叱ったりしてくれる	よくないことをしたときには、注意したり叱ったりしてくれる	相談にのったり、話し相手になったりしてくれない	自分のことをけなしたり、悪く言ったりする	意見を押し付けてくる	とくに感じていることはない	無回答
全体	1,014	49.4	63.0	59.1	78.3	7.5	7.6	25.5	1.7	1.1	
小学生	441	50.8	66.7	64.6	84.4	8.4	6.1	21.8	0.7	0.7	
中学生	422	50.7	60.4	55.9	79.1	7.6	8.5	28.0	1.7	1.2	
高校生	129	38.0	58.1	49.6	57.4	4.7	8.5	27.9	5.4	2.3	
支援校	22	63.6	68.2	63.6	63.6	4.5	13.6	40.9	0.0	0.0	

(2) 祖父母・親せきの人

子どもが祖父母や親せきの人について感じていることとしては、「話をしっかりと聞いてくれる」(66.3%)と「よいところを認めてくれる」(62.7%)が高い率です。この2つをはじめ多くの選択肢が、年齢が高くなるほど低下する傾向がみられ、「とくに感じていることはない」は、年齢が高くなるほど上昇する傾向がみられます(図表36)。

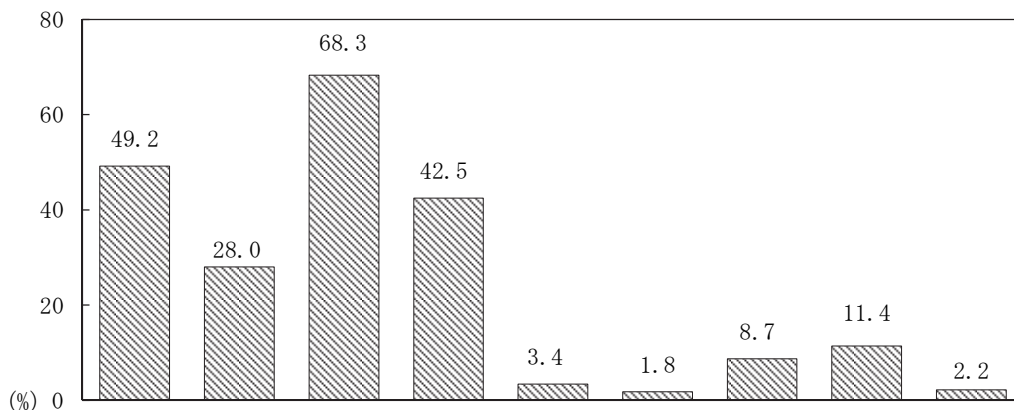
保護者は、「よいところを認めてくれる」(68.3%)が最も高くなっています。「意見を押し付けてくる」「とくに感じていることはない」は子どもの年齢が高くなるほど上昇する傾向がみられ、それ以外の選択肢は逆の傾向がみられます(図表37)。

図表36 祖父母や親せきの人について感じていること(子ども:問10-B・複数回答)



図表37 子どもが祖父母や親せきの人について感じていること（保護者：問11-B・複数回答）

単位：回答数は人、他は%



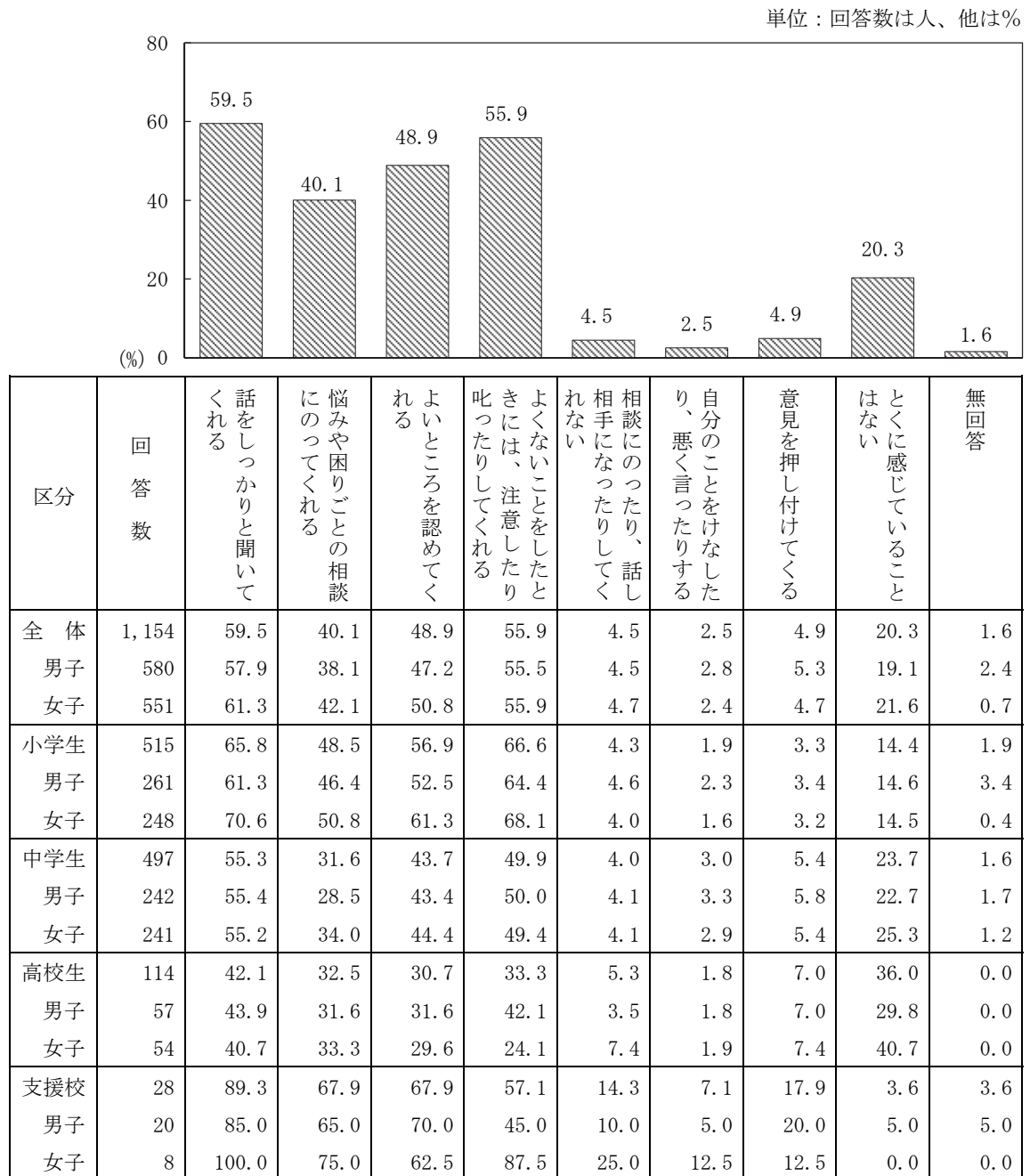
区分	回答数	話をしっかりと聞いてくれる	悩みや困りごとの相談にのってくれる	よいところを認めてくれる	きには、注意したり叱ったりしてくれる	相談にのったり、話し相手になったりしてくれない	相談にのったり、話し相手になったりしてくれない	自分のことをけなしたり、悪く言ったりする	意見を押し付けてくる	とくに感じていることはない	無回答
全体	1,014	49.2	28.0	68.3	42.5	3.4	1.8	8.7	11.4	2.2	
小学生	441	56.5	31.3	75.5	47.4	4.1	1.4	7.5	7.3	2.3	
中学生	422	45.5	27.3	66.8	42.4	2.8	1.4	8.8	12.8	2.4	
高校生	129	35.7	20.2	52.7	25.6	1.6	3.1	13.2	19.4	1.6	
支援校	22	54.5	22.7	45.5	45.5	9.1	9.1	4.5	22.7	0.0	

(3) 学校や施設などの先生について

子どもが学校や施設などの先生について感じていることとしては、「話をしっかりと聞いてくれる」(59.5%)、「よくないことをしたときには、注意したり叱ったりしてくれる」(55.9%)、「よいところを認めてくれる」(48.9%) などとなっています。多くの選択肢は年齢が高くなるほど低下する傾向を示していますが、「とくに感じていることはない」は逆の傾向を示しており、高校生では36.0%にもなっています(図表38)。

「話をしっかりと聞いてくれる」は、子どもが最も高い59.5%なのに対し、保護者は31.3%と低くなっています(図表39)。

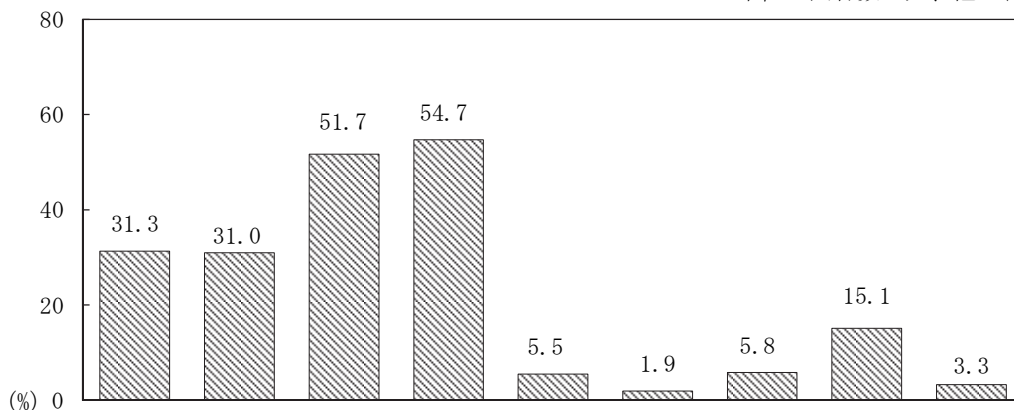
図表38 学校や施設などの先生について感じていること(子ども:問10-C・複数回答)



第1部 調査結果

図表39 子どもが学校や施設などの先生について感じていること（保護者：問11-C・複数回答）

単位：回答数は人、他は%



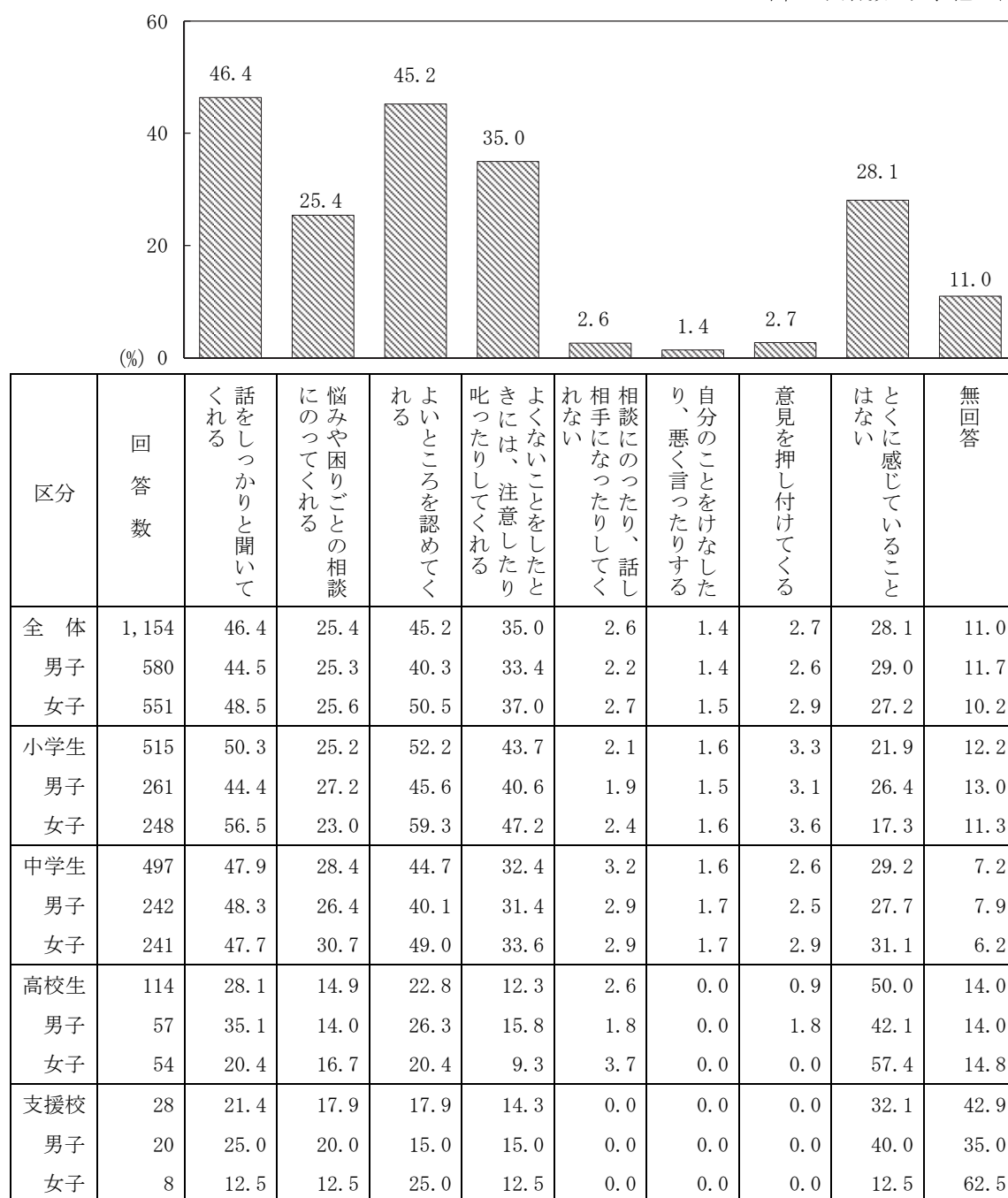
区分	回答数	話をしっかりと聞いてくれる	悩みや困りごとの相談にのってくれる	よいところを認めてくれる	叱ったりしてくれる	きには、注意したり叱ったりしてくれる	よくないことをしたとき	相談にのったり、話し相手になったりしてくれない	相談にのったり、話し相手になったりしてくれない	り、悪く言ったりする	自分のことをけなしたり、悪く言ったりする	意見を押し付けてくる	とくに感じていることはない	無回答
全体	1,014	31.3	31.0	51.7	54.7	5.5	1.9	5.8	15.1	3.3				
小学生	441	32.7	27.7	60.1	63.3	5.9	1.4	4.1	10.2	2.7				
中学生	422	28.9	30.1	46.7	51.2	5.5	2.1	7.1	18.2	4.5				
高校生	129	28.7	39.5	35.7	34.1	3.9	2.3	6.2	24.0	1.6				
支援校	22	63.6	63.6	72.7	72.7	9.1	4.5	13.6	0.0	0.0				

(4) 塾や習いごとなどの先生

図表40と図表41は、子どもが塾や習いごとなどの先生について感じていることを、子どもと保護者に聞いた結果です。子どもの「話をしっかり聞いてくれる」(46.4%)及び「よいところを認めてくれる」(45.2%)、保護者の「よいところを認めてくれる」(49.3%)が、40%を超える高い率を示しています。子ども、保護者とも、「とくに感じていることはない」と無回答が比較的高い率ですが、塾や習いごとなどに通っていない子どもがいるのではないかと推察されます。

図表40 塾や習いごとなどの先生について感じていること（子ども：問10-D・複数回答）

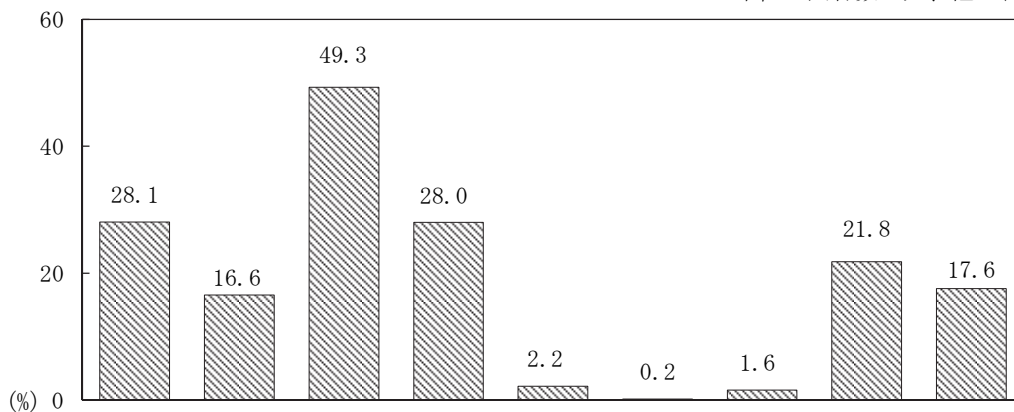
単位：回答数は人、他は%



第1部 調査結果

図表41 子どもが塾や習いごとなどの先生について感じていること（保護者：問11-D・複数回答）

単位：回答数は人、他は%



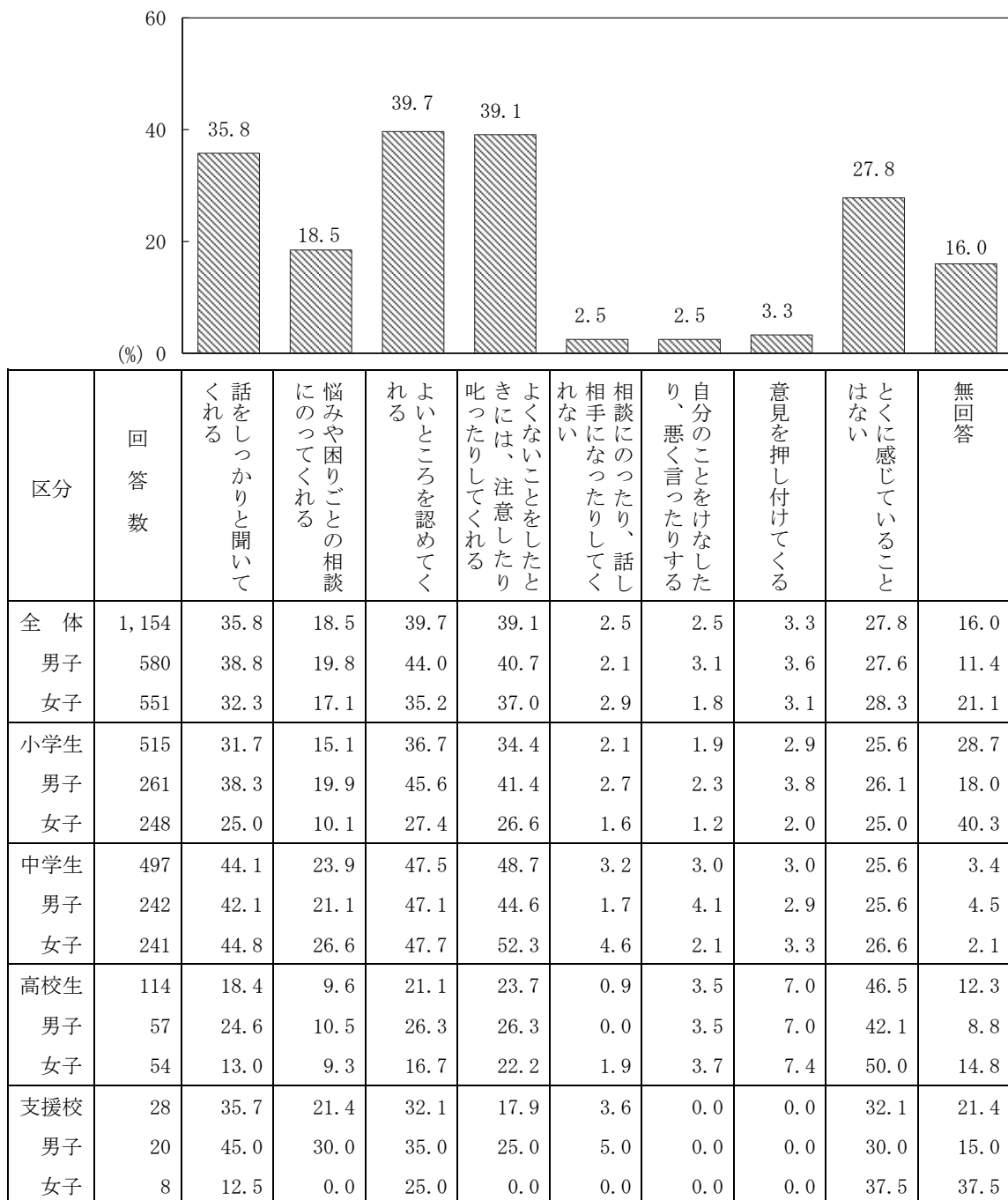
区分	回答数	話をしっかりと聞いてくれる	悩みや困りごとの相談にのってくれる	よいところを認めてくれる	叱ったりしてくれる	相談にのったり、話し相手になったりしてくれない	自分のことをけなしたり、悪く言ったりする	意見を押し付けてくる	とくに感じていることはない	無回答
全体	1,014	28.1	16.6	49.3	28.0	2.2	0.2	1.6	21.8	17.6
小学生	441	28.3	10.7	59.6	35.4	2.0	0.0	0.7	17.2	15.4
中学生	422	31.3	22.0	47.4	27.3	2.8	0.5	3.1	22.3	14.7
高校生	129	19.4	21.7	26.4	9.3	0.8	0.0	0.0	34.9	28.7
支援校	22	13.6	0.0	13.6	4.5	0.0	0.0	0.0	27.3	50.0

(5) スポ少や部活動のコーチ

子どもがスポ少や部活動のコーチについて感じていることは、子ども、保護者とも、「よいところを認めてくれる」が最も高く、次いで「よくないことをしたときには、注意したり叱ったりしてくれる」となっています。前問同様、「とくに感じていることはない」と無回答が比較的高い率ですが、スポ少や部活動に参加していない子どもがいるものと推察されます（図表42・43）。

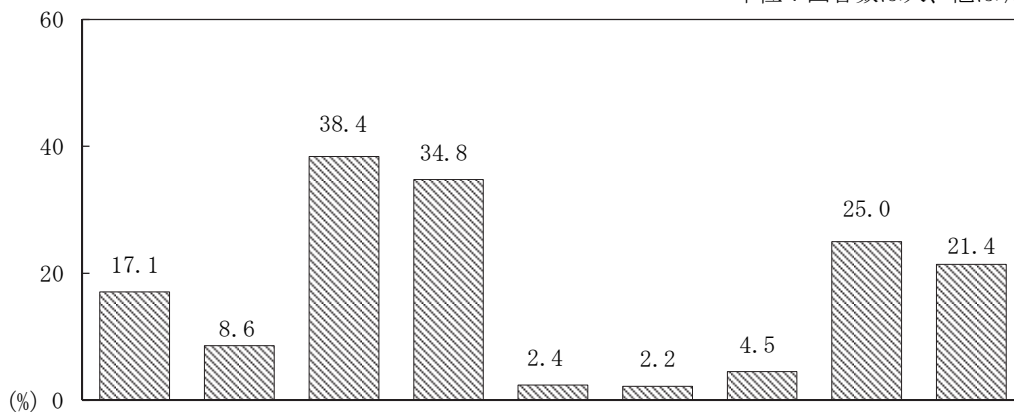
図表42 スポ少や部活動のコーチについて感じていること（子ども：問10-E・複数回答）

単位：回答数は人、他は%



図表43 子どもがスポ少や部活動のコーチについて感じていること（保護者：問11-E・複数回答）

単位：回答数は人、他は%



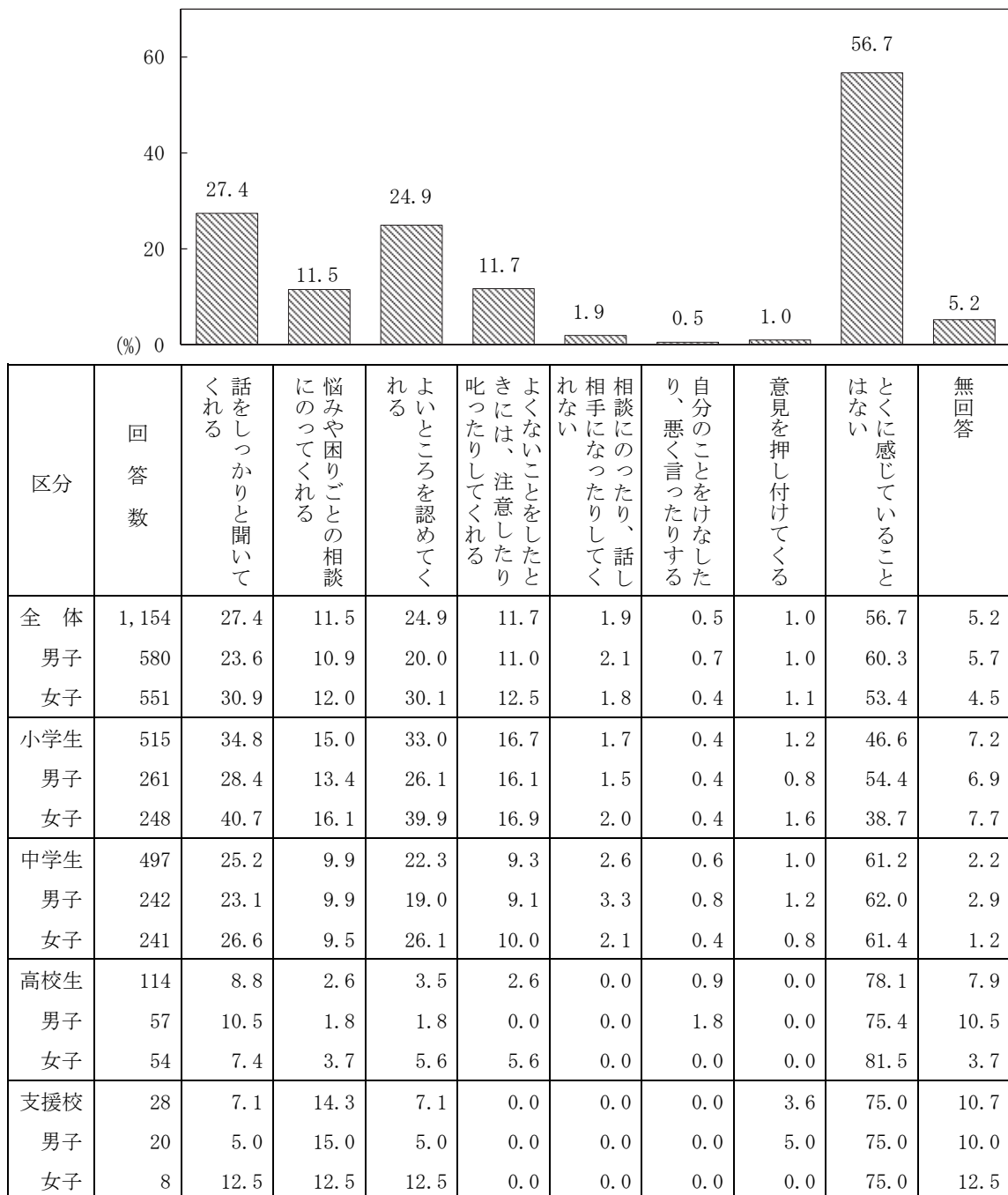
区分	回答数	話をしっかりと聞いてくれる	悩みや困りごとの相談にのってくれる	よいところを認めてくれる	叱ったりして、注意したり	よくないことをしたときには、注意したり叱ったりしてくれる	相談にのったり、話し相手になったりしてくれない	相談にのったり、話し相手になったりしてくれない	自分のことをけなしたり、悪く言ったりする	意見を押し付けてくる	とくに感じていることはない	無回答
全体	1,014	17.1	8.6	38.4	34.8	2.4	2.2	4.5	25.0	21.4		
小学生	441	13.2	4.5	35.4	33.6	1.1	2.0	3.4	19.5	35.1		
中学生	422	22.0	11.8	46.7	42.2	3.3	2.1	5.0	26.8	6.9		
高校生	129	13.2	11.6	20.2	18.6	3.1	3.1	7.8	39.5	19.4		
支援校	22	22.7	9.1	45.5	13.6	4.5	0.0	0.0	13.6	36.4		

(6) その他のおとな（近所の人など）

その他のおとな（近所の人など）について感じていることは、子ども、保護者とも、「とくに感じていることはない」が最も高い率を占めています。少子高齢化、家族形態の変化、職住分離、人口の流出入などの影響によって、かつてあったご近所の密接なかかわりが薄くなってきたため、子どもが近所のおとなとかかわる機会も少なくなった結果と考えられます（図表44・45）。

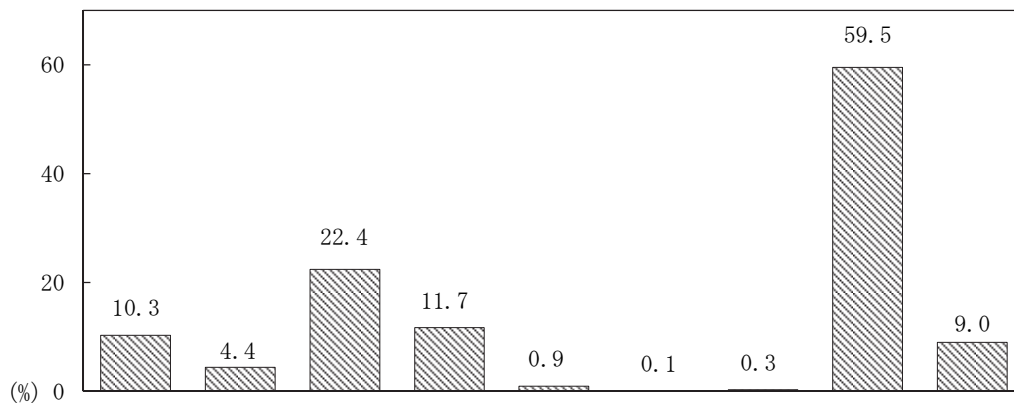
図表44 その他のおとなについて感じていること（子ども：問10-F・複数回答）

単位：回答数は人、他は%



図表45 子どもがその他のおとなについて感じていること（保護者：問11-F・複数回答）

単位：回答数は人、他は%



区分	回答数	話をしっかりと聞いてくれる	悩みや困りごとの相談にのってくれる	よいところを認めてくれる	きには、注意したり叱ったりしてくれる	よくないことをしたと相談にのったり、話し相手になったりしてくれない	相談にのったり、話し相手になったりする	自分のことをけなしたり、悪く言ったりする	意見を押し付けてくる	とくに感じていることはない	無回答
全体	1,014	10.3	4.4	22.4	11.7	0.9	0.1	0.3	59.5	9.0	
小学生	441	13.4	4.5	26.3	14.3	1.1	0.0	0.0	50.6	11.8	
中学生	422	8.5	4.0	21.8	11.4	0.9	0.0	0.2	63.7	5.9	
高校生	129	3.9	3.1	9.3	3.1	0.0	0.0	0.8	78.3	7.8	
支援校	22	18.2	18.2	31.8	18.2	0.0	4.5	4.5	45.5	18.2	

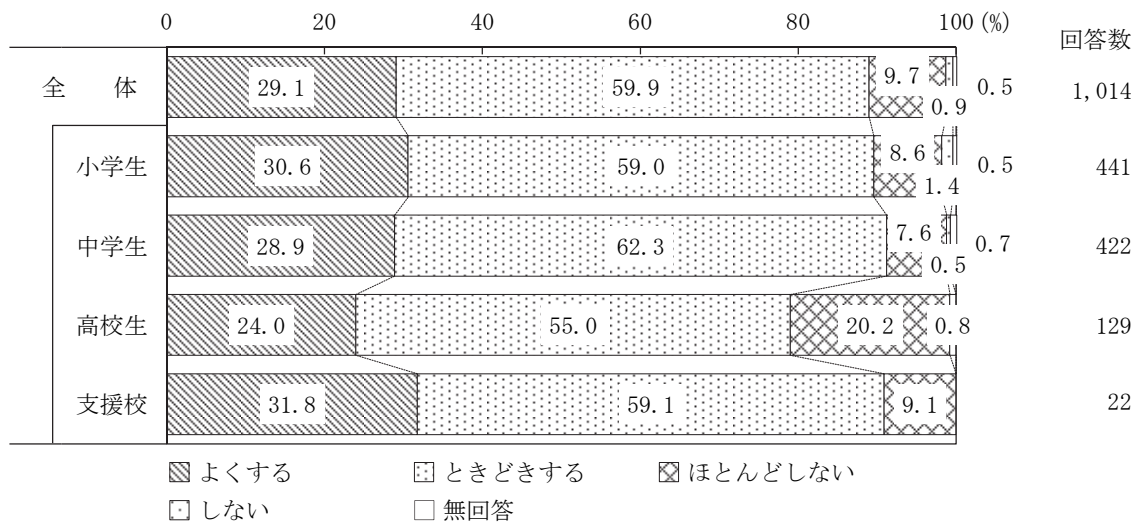
3 子どもに対するしつけの方法（保護者：問10）

本項は、子どもが言うことを聞かない時などに、子どもに対してどのような方法でしつけをしているかを保護者に聞いた結果です。

(1) 諭すように、冷静に口で伝えて注意する

子どもが言うことを聞かない時などに、「諭すように、冷静に口で伝えて注意する」保護者（「よくする」と「ときどきする」保護者）は、小学生89.6%、中学生91.2%、高校生79.0%、特別支援学校生90.9%となっています。

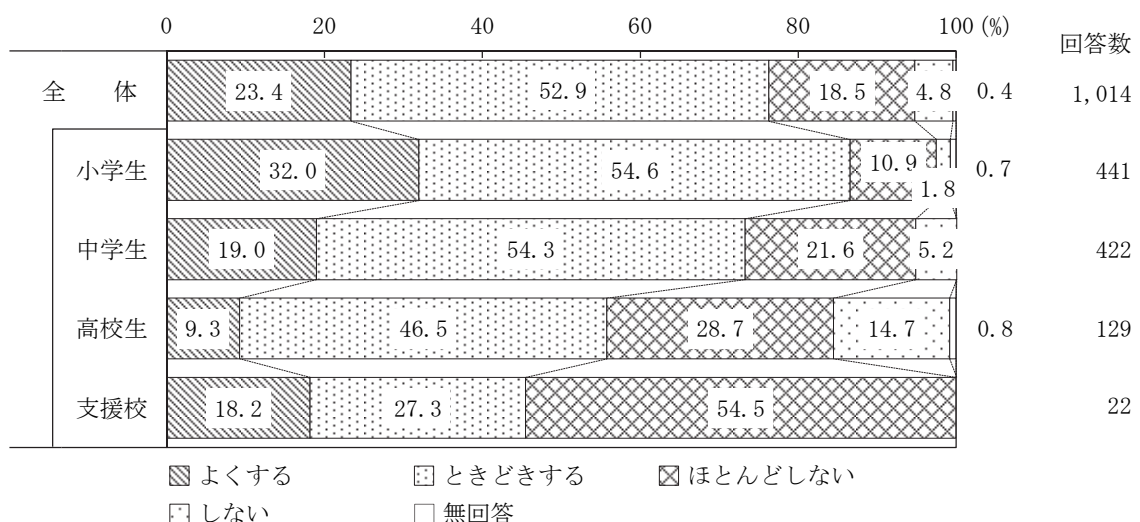
図表46 諭すように、冷静に口で伝えて注意する（保護者：問10-①）



(2) 大きな声で注意したり、しかったりする

子どもが言うことを聞かない時などに、「大きな声で注意したり、しかったりする」保護者（「よくする」と「ときどきする」保護者）は、小学生86.6%、中学生73.3%、高校生55.8%、特別支援学校生45.5%と、高学年の保護者ほど低下しています。

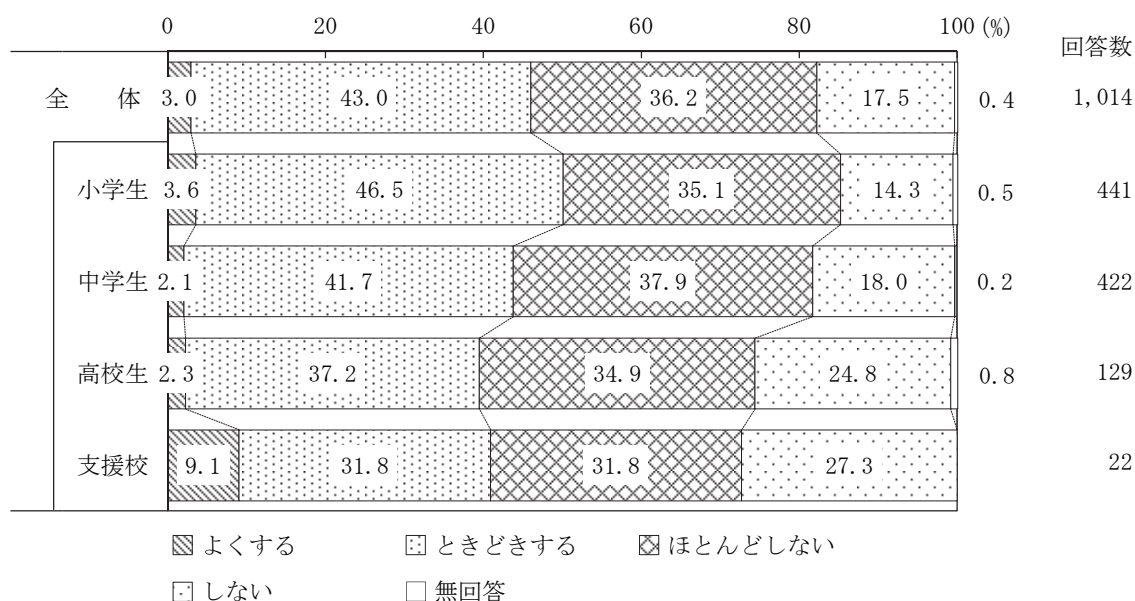
図表47 大きな声で注意したり、しかったりする（保護者：問10-②）



(3) 子どもを傷つけるようなことを言う

子どもが言うことを聞かない時などに、「子どもを傷つけるようなことを言う」保護者（「よくする」と「ときどきする」保護者）は、小学生50.1%、中学生43.8%、高校生39.5%、特別支援学校生40.9%ですが、「よくする」保護者の率は、さほど高くありません。

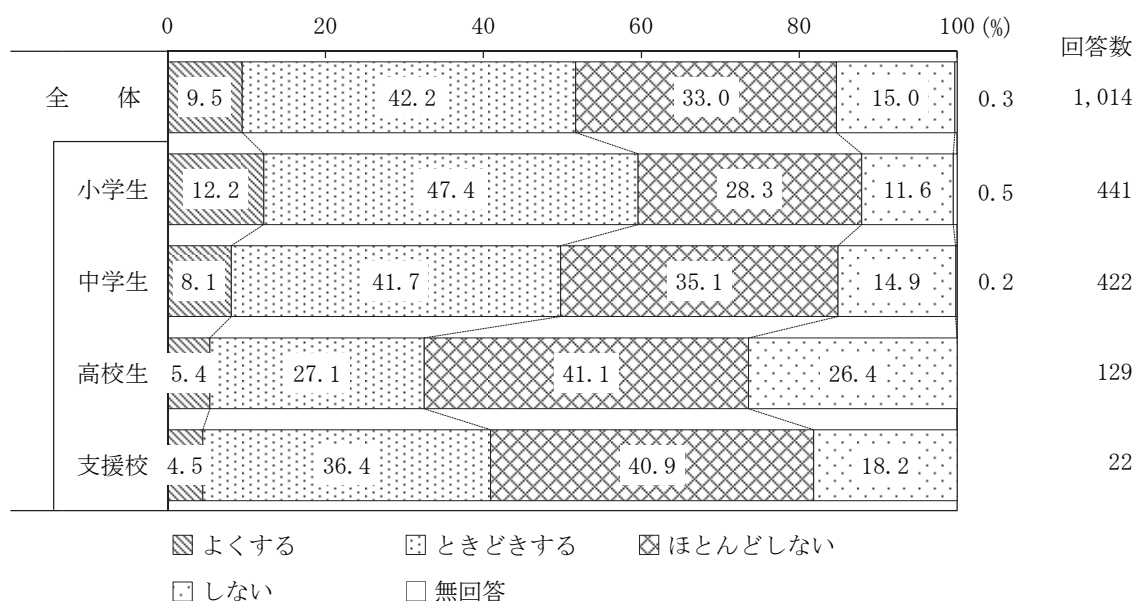
図表48 子どもを傷つけるようなことを言う（保護者：問10-③）



(4) テレビ、ゲーム、スマホなどを禁止する

子どもが言うことを聞かない時などに、「テレビ、ゲーム、スマホなどを禁止する」保護者（「よくする」と「ときどきする」保護者）は、小学生59.6%、中学生49.8%、高校生32.5%、特別支援学校生40.9%と、高学年の保護者ほど低下しています。

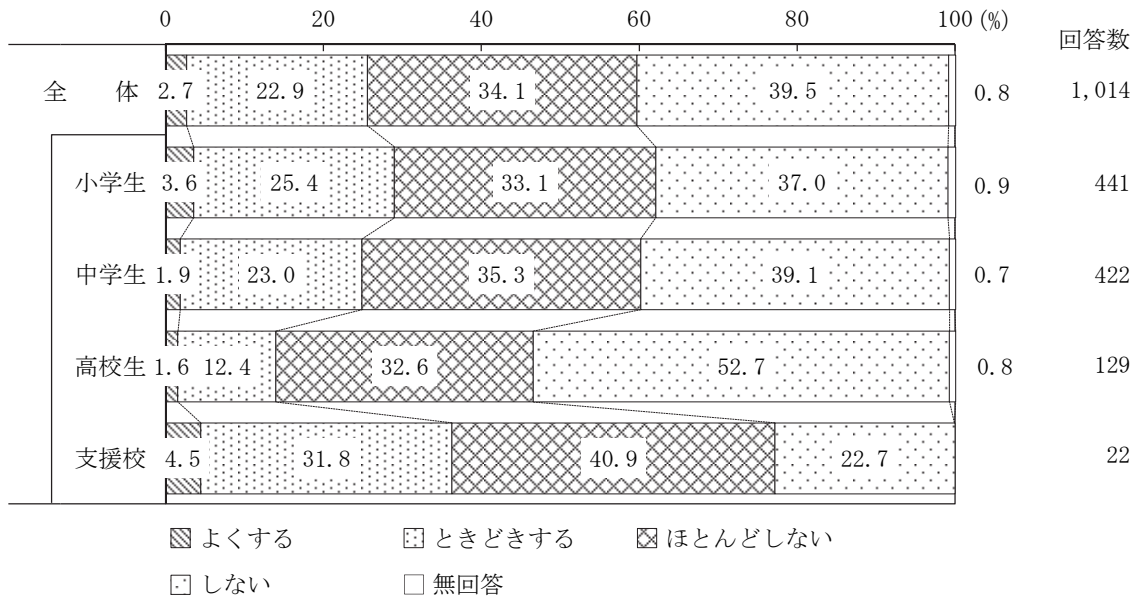
図表49 テレビ、ゲーム、スマホなどを禁止する（保護者：問10-④）



(5) 家や部屋の中で（または、家の外で）反省させる

子どもが言うことを聞かない時などに、「家や部屋の中で（または、家の外で）反省させる」保護者（「よくする」と「ときどきする」保護者）は、小学生29.0%、中学生24.9%、高校生14.0%、特別支援学校生36.3%ですが、「よくする」保護者の率は非常に低い率です。

図表50 家や部屋の中で（または、家の外で）反省させる（保護者：問10-⑤）

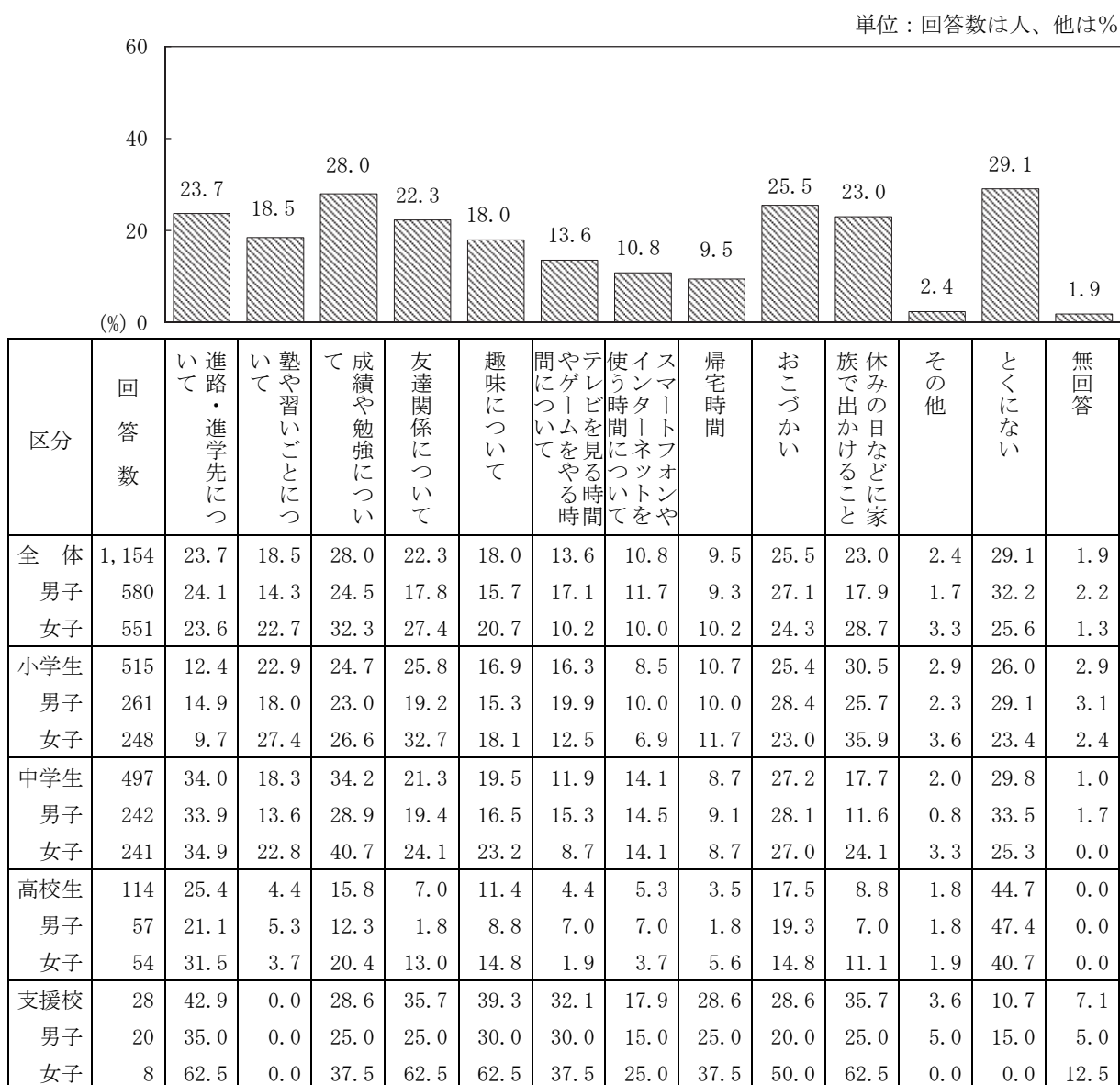


第5 子どもの意見表明、参加の機会

もっと気持ちや意見を聞いてほしいと思うこと(子ども：問11 保護者：問12)
 子どもが、いっしょに暮らしているおとなに、もっと気持ちや意見を聞いてほしいと思うこととしては、全体の各選択肢が30%以下となっています。小学生は「休みの日などに家族で出かけること」(30.5%)、中学生は「成績や勉強について」(34.2%)、高校生は「とくにない」(44.7%)、特別支援学校生は「進路・進学先について」(42.9%)が、最も高くなっています(図表51)。

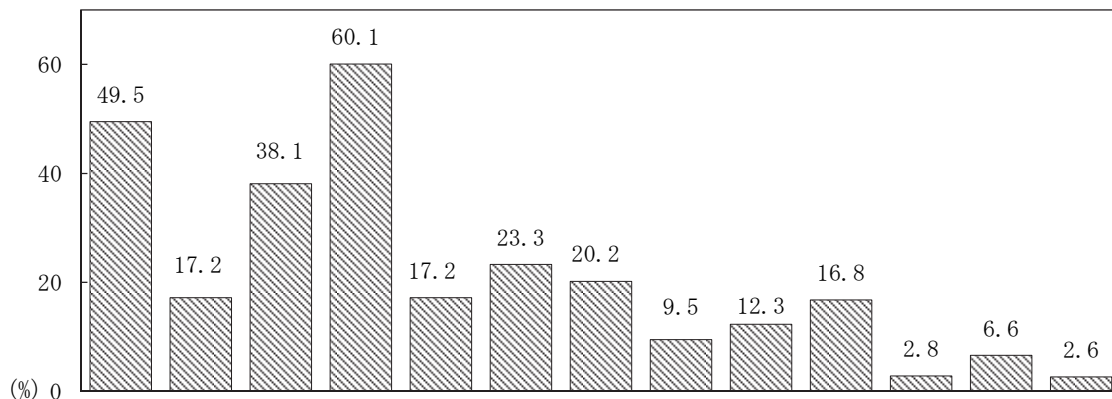
図表52は、保護者に「あなたは家庭生活等の中で、あなたやほかの家族などが、どのようなことで、もっと子どもの気持ちや意見を聞くようにした方がいいと思いますか」と聞いた結果です。最も高い「友達関係について」は低学年ほど高く、次いで高い「進路・進学先について」は高学年ほど高くなっています。

図表51 もっと気持ちや意見を聞いてほしいと思うこと(子ども：問11・複数回答)



図表52 もっと子どもの気持ちや意見を聞いた方がいいと思うこと（保護者：問12・複数回答）

単位：回答数は人、他は%



区分	回答数	進路・進学先について	塾や習いごとについて	成績や勉強について	友達関係について	趣味について	テレビを見る時間やゲームをやる時間について	スマートフォンやインターネットを使う時間について	帰宅時間	おこづかい	休みの日などに家族で出かけること	その他	とくにない	無回答
全体	1,014	49.5	17.2	38.1	60.1	17.2	23.3	20.2	9.5	12.3	16.8	2.8	6.6	2.6
小学生	441	26.8	20.2	37.0	66.9	19.3	27.4	15.4	9.1	13.2	20.0	2.7	6.3	3.6
中学生	422	66.8	18.0	43.8	58.8	17.3	23.0	22.7	9.7	12.3	14.5	2.4	6.6	1.4
高校生	129	69.0	7.0	27.9	41.9	8.5	11.6	28.7	11.6	10.1	12.4	3.1	7.0	3.1
支援校	22	59.1	0.0	9.1	54.5	22.7	13.6	18.2	0.0	9.1	22.7	9.1	9.1	0.0

第1部 調査結果

図表53は、もっと子どもの気持ちや意見を聞いてほしいと思うこととして、「その他」に記入されていたことをまとめたものです。

図表53 もっと子どもの気持ちや意見を聞いてほしいと思う「その他」のこと(子ども:問11-11、保護者:問12-11)

区分	子どもの学年	記 入 内 容		
子 ど も	小 学 校	4年生	友だちと遊びに行くこと(2件) スポ少のこと もっと僕のことを教えてほしい 学校のこと 動物を飼いたい 言葉について ○○さんたちに悪口を言われていること	
		5年生	スポ少のこと 引っ越すことについて ケンカしているとき、怒っているとき 学校の出来事 寝る時間	
		6年生	部活はどうするか 友達と遊ぶ日 モデルになりたいという夢	
	中 学 校	1年生	部活について 自分の意見や話 姉の病気について 男の子(恋愛)について	
		2年生	自己 家庭の環境について、精神状態について 家族と仲良くしてほしい	
		3年生	聞いてほしくない	
	高 校	3年生	東京のオープンキャンパスに行きたい 自閉症の思い	
	保 護 者	小 学 校	4年生	将来のこと、たわいもないこと 子どもの興味のあること 成人していないのに必要以上に媚びを売る必要はないと思う。子ども様々にしている習慣は反対 1日の生活リズム
			5年生	睡眠時間 心配ごと・悩みごと・つらいこと 学校での出来事
6年生			寝る時間について(2件) 日常生活の様々な場面での会話の中で、考え方や価値観の交流をすること 学校生活、担任などの話	
中 学 校		1年生	今、何を悩んでいるのか?ということ 家族関係について	
		2年生	将来について	
		3年生	子どもの気持ちや意見は、どれも重要 現状のままでいいと思う 雑談や、たわいもない話 どれとかではなく、すべて話して親子で決めていくべきだと思うから、話せる関係であることが一番だと思う 子どもの話を聞いてあげる 家でどうリラックスしたいのか、その方法。学校や部活で疲れて帰宅する子どもがくつろぐために、親が手伝えることはあるのか? あるなら教えてほしい	
高 校		1年生	日々のニュースについて 子どもが話したいことについて気持ちや意見を聞けばよいと思う	
		2年生	どんなこともまず子どもの意見から。子どもの意見を尊重します 子どもが最も望んでいることは、話を聞いたりすることよりも、とにかく父と母が仲良くすることにつきます	
		3年生	十分できている 障害のある子の就労先 好きなこと、話したいタイミングで話を聞いてあげる	

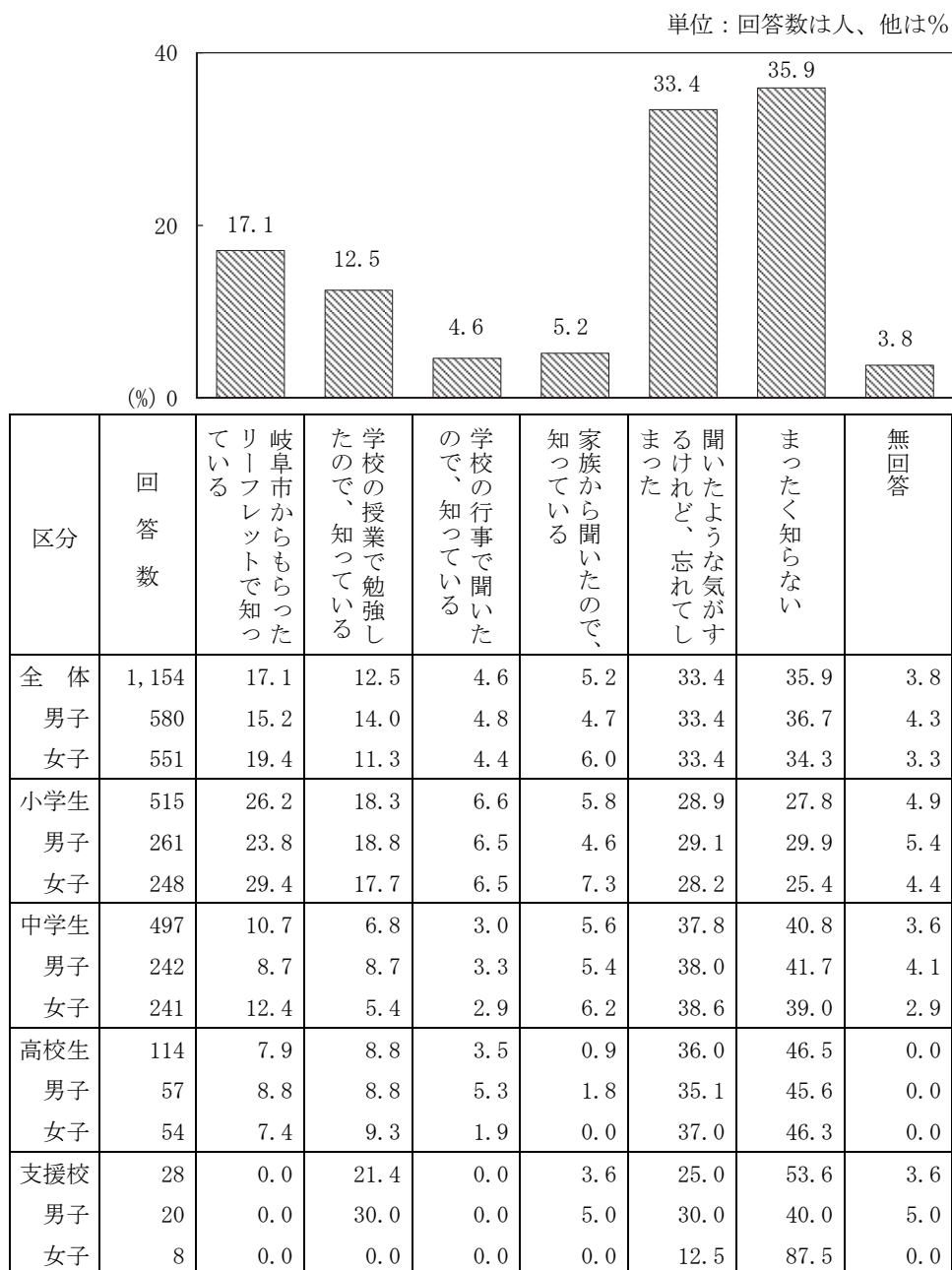
第6 子どもの人権を守る条例や相談機関

1 岐阜市子どもの権利に関する条例の認知度（子ども：問12 保護者：問13）

「岐阜市子どもの権利に関する条例について知っていますか」という設問に対して、子どもは「まったく知らない」（35.9%）が最も高く、次いで「聞いたような気がするけれど、忘れてしまった」（33.4%）となっています（図表54）。

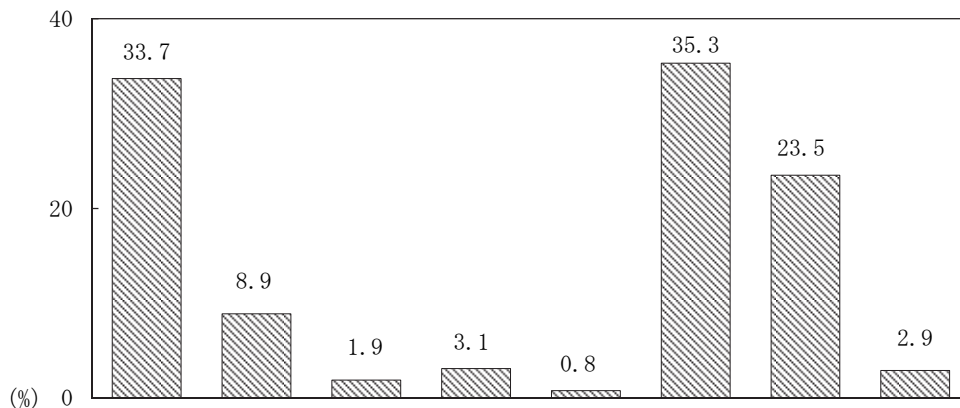
同じ設問に対して、保護者は「聞いたような気がするけれど、忘れてしまった」（35.3%）が最も高く、次いで「岐阜市から配布されたリーフレットを見て、知っている」（33.7%）となっています（図表55）。

図表54 岐阜市子どもの権利に関する条例の認知度（子ども：問12・複数回答）



図表55 岐阜市子どもの権利に関する条例の認知度（保護者：問13・複数回答）

単位：回答数は人、他は%



区分	回答数	岐阜市から配布されたリーフレットを見て、知っている	学校の保護者会で聞いたので、知っている	学校の行事で聞いたので、知っている	子どもから聞いたので、知っている	行政等が主催する研修会で聞いたので、知っている	聞いたような気がするけれど、忘れてしまった	まったく知らない	無回答
全体	1,014	33.7	8.9	1.9	3.1	0.8	35.3	23.5	2.9
小学生	441	33.6	8.2	1.4	2.9	0.5	37.6	20.0	3.4
中学生	422	34.8	9.5	1.4	2.8	1.4	34.8	23.7	2.4
高校生	129	31.0	8.5	3.9	3.9	0.0	29.5	34.1	2.3
支援校	22	31.8	13.6	9.1	4.5	0.0	31.8	27.3	4.5

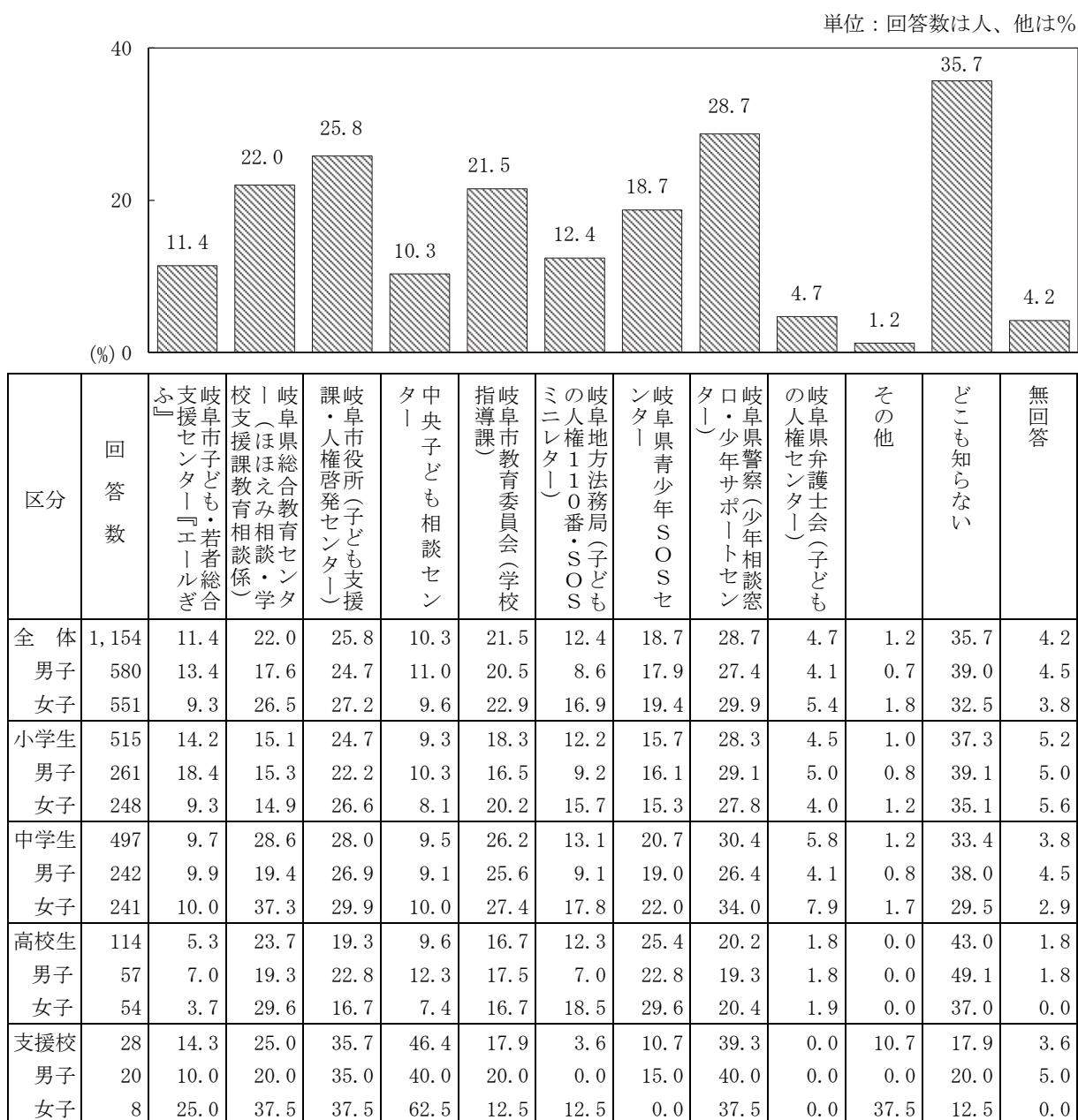
2 子どもの相談機関（子ども：問13 保護者：問14）

(1) 知っている子どもの相談機関

子どもの相談機関のうち、子どもが知っているのは、「岐阜県警察（少年相談窓口・少年サポートセンター）」（28.7%）、「岐阜市役所（子ども支援課・人権啓発センター）」（25.8%）などが比較的高い率ですが、「どこも知らない」（35.7%）が最も高い率となっています（図表56）。

一方、保護者は、「岐阜県総合教育センター（ほほえみ相談・学校支援課教育相談係）」（35.9%）、「岐阜市役所（子ども支援課・人権啓発センター）」（30.7%）など、子どもより高い相談機関が多く、「どこも知らない」は14.1%にとどまっています（図表57）。

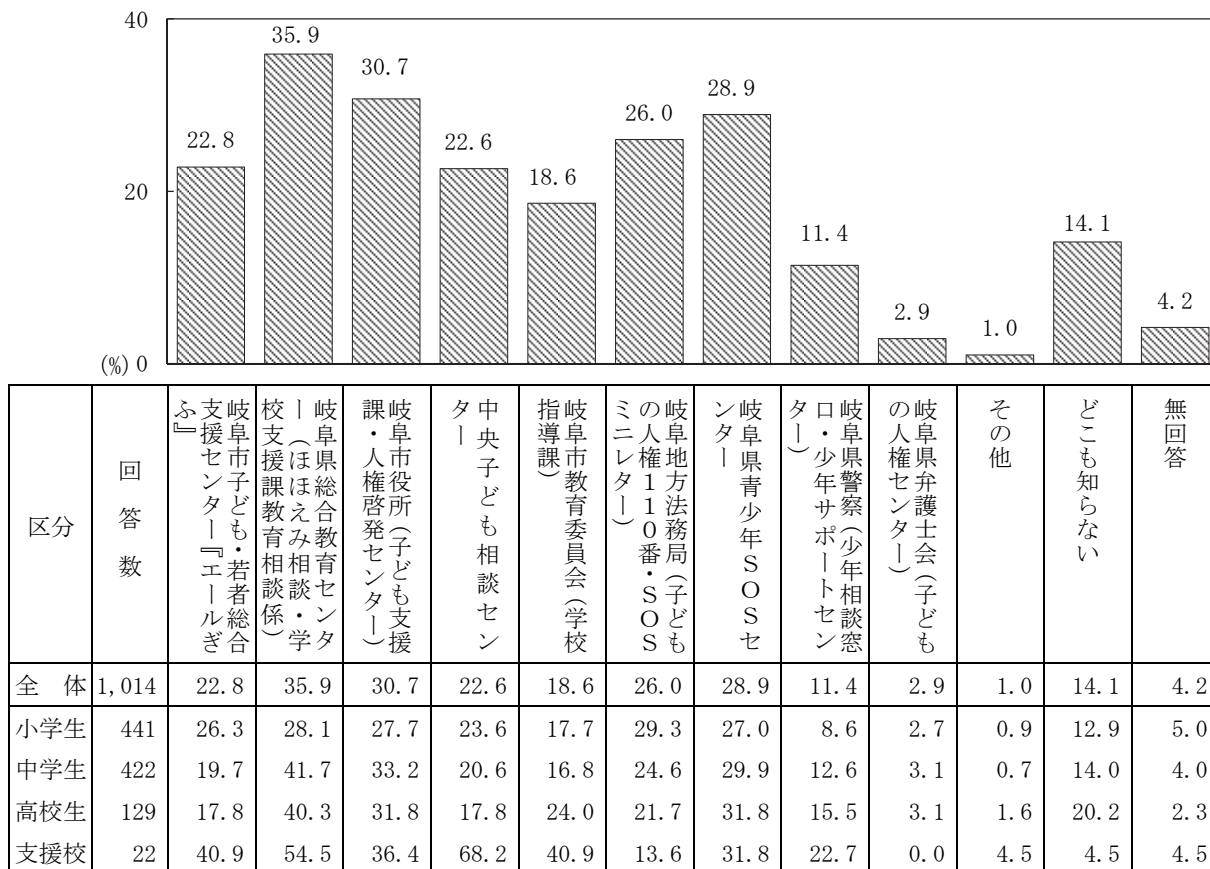
図表56 知っている子どもの相談機関（子ども：問13・複数回答）



第1部 調査結果

図表57 知っている子どもの相談機関（保護者：問14・複数回答）

単位：回答数は人、他は%



図表58は、「その他」に記入されていた回答者の知っている相談機関です。

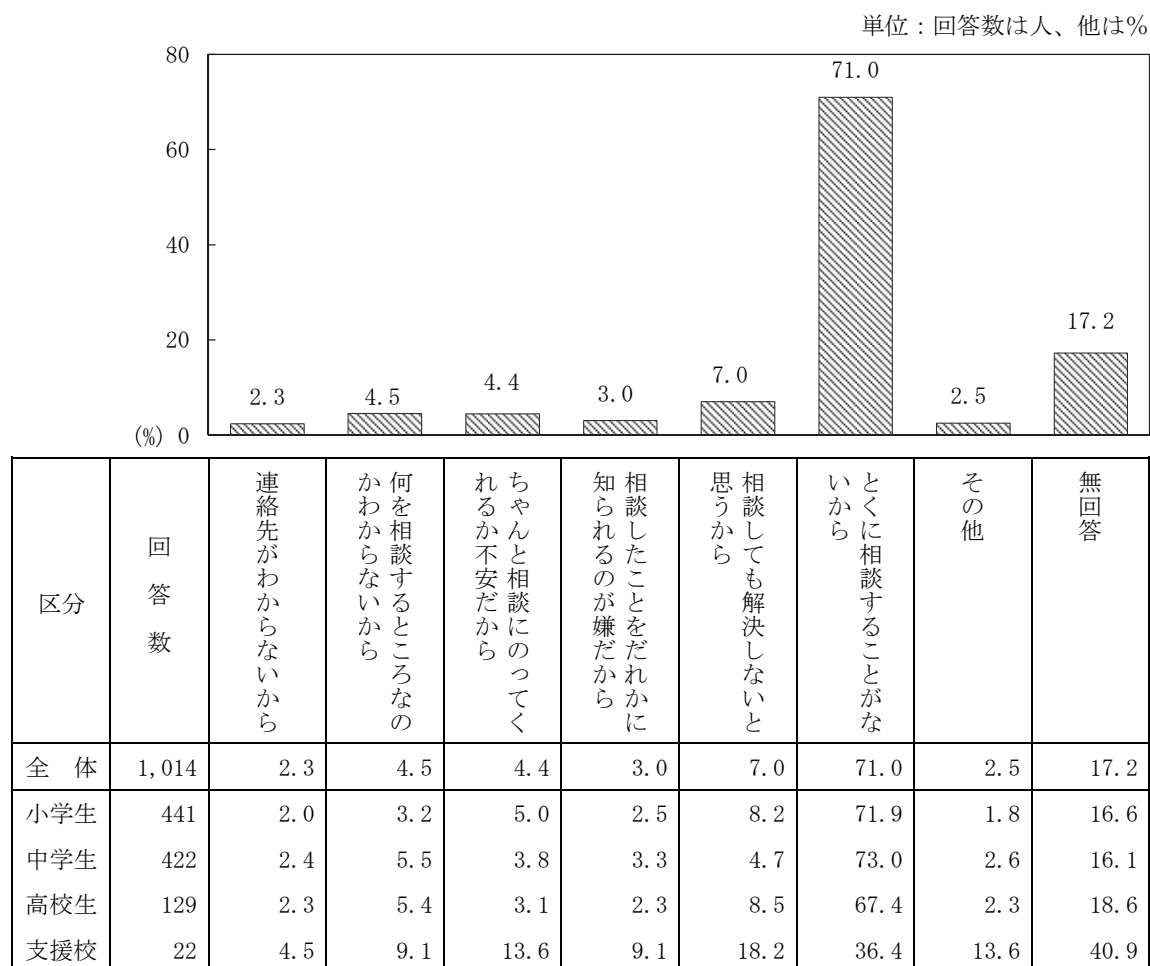
図表58 知っている「その他」の相談機関（子ども：問13-10 保護者：問14-10）

区分	子どもの学年	記入内容	
子ども	小学 4年生	カウンセリング 110番	
	中学 1年生	あるのは知っているけど、その場所の名前までは知らない	
	高校	2年生	東濃子ども相談センター、多治見市役所
		3年生	ハローワーク 子ども流通センター
保護者	小学校	4年生	電話相談
		5年生	相談を受けつけてくれる所がいろいろあるのは知っているが、名称までは覚えていない ふれあい会館西側隣の…
		6年生	いじめ相談24、教育相談ほほえみダイヤル
	中学校	1年生	市民健康センター
		3年生	学校から配られたものは見て、知っている
		高校	2年生
高校	3年生	学校の相談室	

(2) 相談機関を利用したことがない理由（保護者：問14-2）

図表59は、問14で「○」をつけたけれど（相談を受けてくれるところがあると知っているけれど）相談機関を利用したことがない保護者に、利用したことがない理由を聞いた結果ですが、「とくに相談することがないから」が71.0%あります。

図表59 相談機関を利用したことがない理由（保護者：問14-2・複数回答）



図表60は、「その他」に記入されていた相談機関を利用したことがない理由です。

図表60 相談機関を利用したことがない「その他」の理由（保護者：問14-2-7）

子どもの学年		記 入 内 容
小 学 校	4年生	<ul style="list-style-type: none"> ・今のところは、家庭内や先生に相談して解決しているから ・行政の介入できる範囲は決まっている。個人で相談しても親身になってくれないが、医者からのアポがあると、対応が変わった ・いくつもありすぎて、どこに相談するのが適切かわからないから ・まだ子どもが解決できることだと思うから
	5年生	<ul style="list-style-type: none"> ・どういうことをどのくらい相談していいか程度がわからない
	6年生	<ul style="list-style-type: none"> ・相談事を理解してもらえないか不安だから ・親身になってはくれないと思うから
中 学 校	1年生	<ul style="list-style-type: none"> ・知らない人に相談しても、信用できないから ・相談しても本当に親身になって解決してくれると思えないから ・自分と同じ親（ママ友達）などに相談している ・一人で悩んでいないから
	2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・家で解決できていると思うから
	3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・相談する時間がないから ・相談することによって、「この親はダメだ」と思われるのではないかと思うから ・必要じゃない ・どこに何を相談すればいいのかわからない（困りごと別） ・家族で解決できるため ・相談しなくても、親戚、友人たちに相談できるので利用する必要がない。子どもは周りの人・友人に守られています
高 校	1年生	<ul style="list-style-type: none"> ・相談する時間がないから ・中学の時は特別支援で、ほほえみとはかなり関わりがあったので、特別に相談したことはない ・参加する勇気がないから
	2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・電話が繋がらないと子どもは言っていた。電話の利用者が多いからでしょうか
	3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の先生のことなので、子どもが学校での立場をなくすといけないから

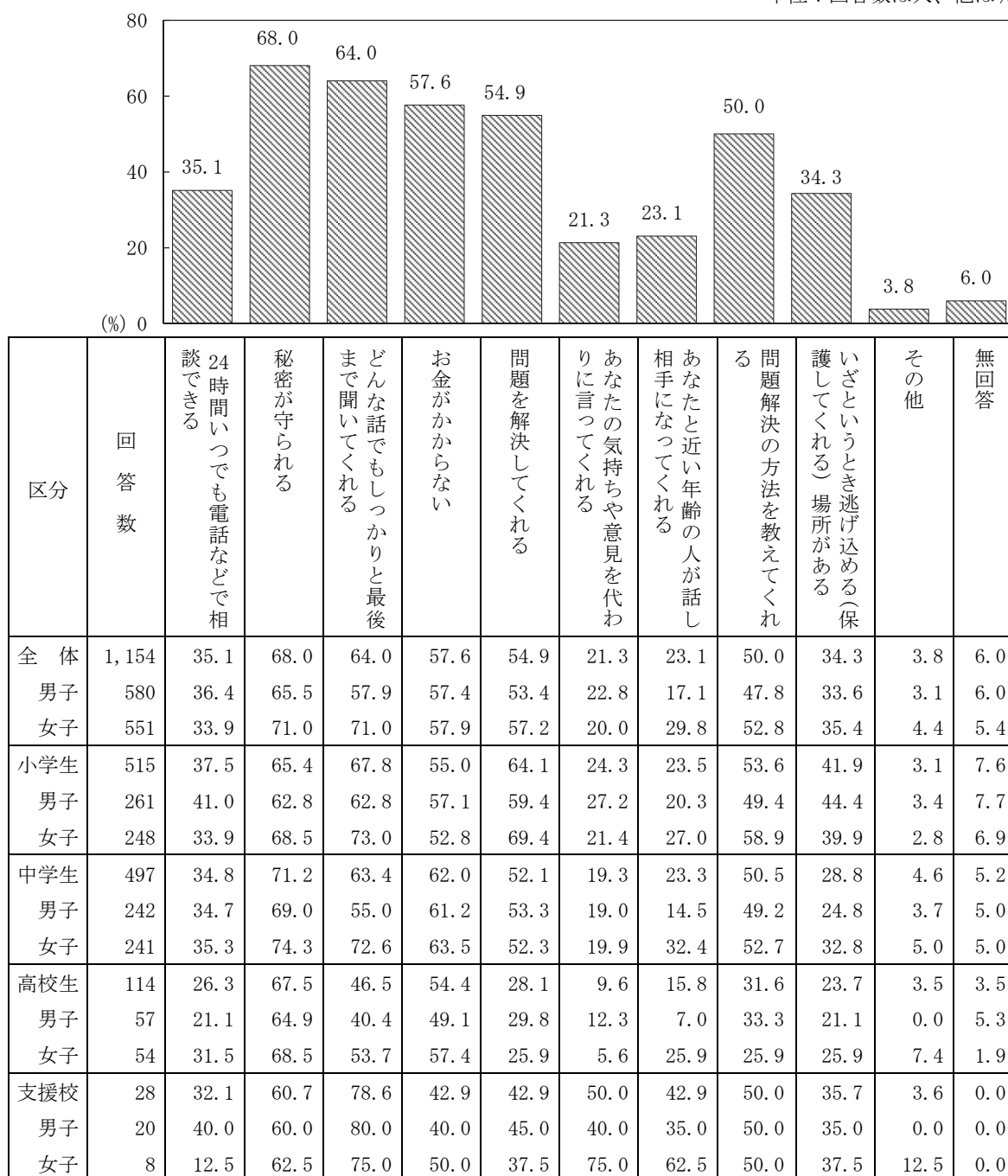
3 どんな相談窓口なら利用したいか (子ども：問14 保護者：問15)

悩みや困ったことがあったとき、どんな相談窓口なら利用したいかという設問に対して、子どもは「秘密が守られる」(68.0%)、「どんな話でもしっかりと最後まで聞いてくれる」(64.0%)など、多くの選択肢が高い率を示しています(図表61)。

一方、保護者は、「プライバシー(秘密)が守られる」(65.4%)、「どんな話でもしっかりと最後まで聞いてくれる」(57.1%)及び「問題解決の具体的な方法を教えてくれる」(53.7%)の3選択肢が50%を超えています(図表62)。

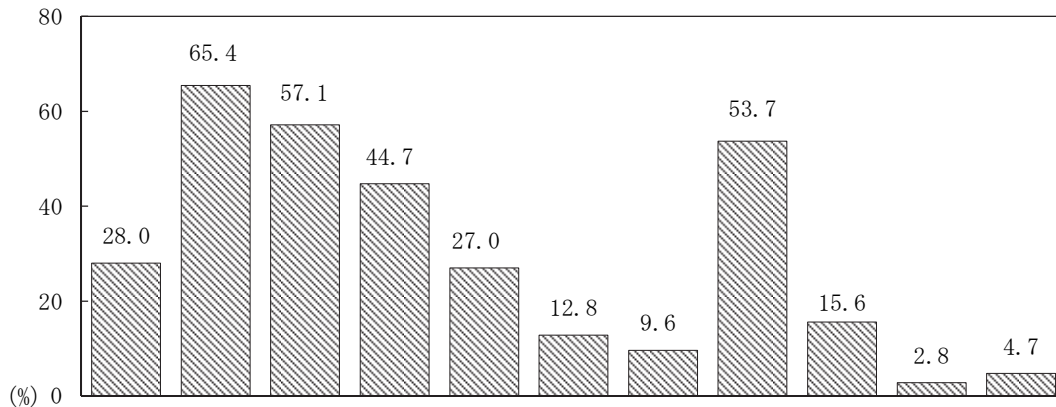
図表61 どんな相談窓口なら利用したいか (子ども：問14・複数回答)

単位：回答数は人、他は%



図表62 どんな相談窓口なら利用したいか（保護者：問15・複数回答）

単位：回答数は人、他は%



区分	回答数	24時間いつでも電話などで相談できる	プライバシー（秘密）が守られる	どんな話でもしつかりと最後まで聞いてくれる	お金がかからない	問題を解決してくれる	あなたの気持ちや意見を代わりに言ってくれる	あなたと近い年齢の人が話し相手になってくれる	問題解決の方法を教えてくれる	いざというとき逃げ込める（保護してくれる）場所がある	その他	無回答
全体	1,014	28.0	65.4	57.1	44.7	27.0	12.8	9.6	53.7	15.6	2.8	4.7
小学生	441	27.9	66.0	56.2	45.8	27.9	12.0	8.6	57.1	15.0	2.9	4.3
中学生	422	27.7	64.7	56.9	43.8	27.7	12.8	10.2	50.9	16.4	1.9	6.6
高校生	129	28.7	66.7	59.7	41.1	20.2	13.2	9.3	48.1	14.0	4.7	0.8
支援校	22	31.8	59.1	63.6	59.1	36.4	27.3	18.2	72.7	22.7	4.5	0.0

どんな相談窓口なら利用してみたいか、「その他」として多くの記入がありました。

図表63 どんな相談窓口なら利用してみたいか、「その他」(子ども：問14-10 保護者：問15-10)

区分	子どもの学年	記 入 内 容	
子 ど も	小 学 校	4年生	<ul style="list-style-type: none"> ・暴力(2件) ・相談しない(どんな所でも相談しない 思わない) ・自分の気持ちをしっかりわかってくれる ・おばあちゃんやおじいちゃんみたいな優しい人 ・いやなことを言われなくなったり、いやなことをされなくなる
		5年生	<ul style="list-style-type: none"> ・特に相談しない ・そう思わない ・女の人が聞いてくれる ・わかりやすく教えてくれる
		6年生	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなことでも、誰にも話したくない
	中 学 校	1年生	<ul style="list-style-type: none"> ・同性の人が話し相手になってくれる ・女性で相づちをうちながら優しく接してくださる方がいらっしやる場所 ・やさしく話してくれる ・信用できる人。知らない人は信用できない ・皆がやさしい人がいる場所
		2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・相談しない(他人には相談しない 相談しようと思わない どこにも相談しない 大人が信用できないのでない 困ることがない) ・どんな小さいことでも聞いてくれる ・SNSで相談したい ・優しい ・けんかだと間に入ってくれるような人 ・ほめてくれる ・いじめとか以外に不安なこと(恋愛、家族のこと)とかも聞いてくれる ・頼りになる人
		3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・相談しない(特に相談したいと思わない 信用できないから相談しない) ・親切に接してくれる
	高 校	2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・特に悩みがないので相談しなくていい ・電話相談とかよりメールの方が相談しやすい ・1対1で会話
		3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・電話だけでなくメールでも受けつけてくれる
	保 護 者	小 学 校	4年生
5年生			<ul style="list-style-type: none"> ・特になし(2件) ・相談しない(相談しようと思わない 利用しない。自分で考え続けるのが育児) ・学校側との仲介もしてくれる ・相談までの手続きが簡単でタイムリーに相談に乗ってくれる ・事務的な対応でない窓口 ・24時間とは言わないが、仕事をしているので夜9時頃まで相談できるといいと思います

第1部 調査結果

区分	子どもの学年	記 入 内 容
保 護 者	中 学 校	1年生 <ul style="list-style-type: none"> ・上から目線ではなく親身になってくれる人なら相談する ・母子保護シェルターや虐待からの保護は、24時間365日対応してほしい。経験者の声を活かしてほしい ・今は、場所もわからず、堅いイメージがあります。図書館のような大きな窓口から、絞り込んで相談窓口に行けるような、気軽な場所であってもいいのではと思います。余程せっぱつまった状況でしか頼れない所だと思っているので、利用するにはハードルが高く感じます ・管轄外だとか、対象外だとか、行政の区分にとらわれず、最後まで相談に対する責任を持ってもらいたい ・信頼できる人にしか話そうと思わない
		2年生 <ul style="list-style-type: none"> ・相談しない（相談しないと思う 悩んでいない。悩んだら友達に相談する）
		3年生 <ul style="list-style-type: none"> ・時間制限がなく、相談する側と同じ経験をしている人や体験したことがある人が対応してくれる ・自分のまわりの人に相談できない人は、話を聞いてくれるだけで違うので、電話による相談はフリーダイヤルにしてあげると何度も相談できると思います。何度も電話で相談する人は、担当の人が決まると安心できるのではないかと思います。最後まで相談できるといいと思います
	高 校	1年生 <ul style="list-style-type: none"> ・どんなことでも相談できる
		2年生 <ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口は知らない。学校内で解決してほしい。外の人に、他の人に話をしても信用できない ・その方個人の意見を押しつけない。子どもはそれぞれ性格も違うので、型通りのアドバイスは当てはまらないことがある ・性格の合う合わないがあるので話してみないとわからない。話して合わない時には別の方（考え方）に変わってくれるような所だと思って行ってみてもいいかなと思います ・もっといろいろな子どもがいることをわかってくれる ・（問題解決の方法について）とりあえずできること→少したったらできること→評価 ここをやってくれると安心
		3年生 <ul style="list-style-type: none"> ・相談しない（利用しない 相談しようと思わない）